

ごあいさつ

学長 稲葉英男

最近の我が国の人口動態調査によれば、昨年度の新生児の出生は 100 万人前後と出生率の減少に歯止めが掛からず、現在の総人口 1 億 2 千 7 百万人から 2048 年に 1 億人を割り込み、2060 年には 8600 万人と現在の 3 分の 2 に減ると予想している。我が国の人口移動の特徴は、昨年度東京圏での人口増加が 10 万人以上であったように大都市圏への労働人口の集中と地方の人口減少が同時に進み、若年層が流失し続けた地方は人口の再生能力を失い、やがて地方から都市への人口供給が減少に転ずると、最終的に我が国の総人口の大幅な減少となる構図である。一方、我が国の学生数の約 8 割を占める私立大学の状況は、志願者数の大凡 4 割が大都市にある二十数校に集中する典型的な寡占市場であり、地方の人口減少、特に 18 歳人口の減少は、地方大学の消滅につながりかねない大きな問題である。

このような状況を打破するには、地域産業の芽となる新産業創成や人材育成に寄与する地方私立大学機能の活性化と同時に新産業展開に向けてのインフラの整備等が重要となる。地域の大学で学び、地元で働く「人材の好循環」を生み出し、地域が活性化して、我が国を支えるべきと思う。地方大学の地域貢献に対する評価は、「大学の教育研究が地域の課題解決に十分応えていない」、「学生が大学で学んだことが地域に出てからあまり役にたっていない」、そして「地域と教員個々人との繋がりはあるけれども、大学が組織として地域との連携に取り組んでいない」である。一方、現状の地方大学が考える地域貢献は「公開講座」や「住民の教養向上」などが上位を占めるが、地域はシンクタンク機能や学生の地域参加など対話型貢献を期待している。

最近に至り、政府は省庁横断的に地域振興策を取り纏める「ひと・まち・しごと創生本部」を立ち上げ、まず地方の魅力や特色を生かし、若者が働ける場、子育てができる場を作ることが極めて重要との認識に立ち、地方重点の様々な政策を推進し、50 年後においても人口一億人を維持する計画である。地方創生のエンジンとなる高等教育機関の在り方としては、(1) 少子高齢化が進む中で、地域のコミュニティに多様な機能が求められる中で、高等教育機関はどのような役割を担って行くべきか。街作りや文化、スポーツ政策や雇用・経済政策等との連携をどのように進めるべきかが課題となる。(2) 多様な地域人材の育成と参画を通じて、地域の大学を核とした地域内外の交流やネットワークの拡大を如何に図るかも重要である。(3) 地域における産業・雇用の創出、人材の育成機会の確保・強化、中小企業のグローバル化対応やイノベーションへの支援、地域外との交流拡大など、地域の拠点となる大学等の機能強化が必要となる。来年度から政府は「地(知)の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)」を実施し、地域の実情に応じた雇用創出、学卒者の地元雇

用定着率向上等に向けた取組が期待されている。

就実大学・短大も平成 26 年に経営学部が発足して、社会科学・人文科学・自然科学系からなる総合大学として「学際的な文理融合の幅広い視野を持った地域人材養成機関」に脱皮すべく大学改革を通じて、地域社会へ広く貢献したく思っております。さらに、本学に産学官地域連携センターが設置され、地域社会の知の拠点として地域社会の振興や活性化に組織的に対応する所存ですので、皆様のご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

平成 26 年度に就実大学・就実短期大学が開催・実施した、様々な社会連携活動の内容を記した報告書を発刊しましたので、ご参考としていただければ幸いです。

平成 27 年 3 月 吉日

目 次

ごあいさつ	1
就実公開講座	5
学科・研究所・センター等主催事業	37
出前授業	63
学外組織との連携・協働	69
各種学外委員会の応嘱	73
講師の派遣	83

就 実 公 開 講 座

前期講座テーマ

「英米の文化と社会」

(平成 26 年 6 月 7 日～7 月 12 日)

アメリカ映画で学ぶ英語 I

人文科学部 実践英語学科 教授 小池 直己

1. 序論

アメリカの大衆文化の一つである映画の中で使われているフレーズや会話表現は日常生活にそのまま応用できる表現が多く、簡単な英単語を組み合わせることによって複雑な人間の心理を表現することが出来る。生きた英語、生の英語を学ぶためには、日常生活の場面を通して、状況に応じた適切な英語表現を学ぶことが最も大切である。従って、アメリカ社会の縮図ともいえるアメリカ映画は「使える英語」を学ぶための理想的な英語教育教材の一つであると考えられる。

2. アメリカ映画を教材とした英語教育

映映画を通して現代のアメリカ社会において実際に日常生活の中で使われている会話表現を学ぶことによって、日常生活のあらゆる場面で対応できより実践的なコミュニケーションのための英語力を身につけることが出来る。映画を見る際に特に注意すべき事は、簡単な中学校レベルの単語の組み合わせによって、人間の感情を非常に的確に表現するような会話例が数多くあるということである。同じ映画を何度も繰り返し見ていると、ある会話がどんな状況でどのように交わされたか、はっきりと頭の中に生きた状態で記憶に残っていく。DVD は自分が観たい場面の検索が楽な上に英語の字幕と日本語の字幕が両方入っているので、学習者は自分で好きな方を選び表示できる。

英語字幕 (Closed caption) は本来、英語圏のネイティブでも耳の不自由な方のために開発されたものであるが、今日の日本の英語教育にも多大な貢献をしているのである。

3. DVD の段階的レベルアップ法

『ローマの休日』なら5回は見た。」という人もかなりいると思うが、何度も同じ映画を観ていると、ある会話がどんな状況で交わされたか、はっきりと生きた状態で記憶に残っていく。最初は映画館の大画面で見て感動する。場合によっては何度か映画館に通うこともある。更に、その後、DVD を購入して、あらためて観直すと効果的である。特にDVD は場面の検索が楽な上に、英語の字幕と日本語の字幕が両方入っているからである。

DVD の字幕機能効果を最大限に生かすために、段階的に英語力をレベルアップさせる方法が存在する。

まず、第一段階は音声を「英語」、字幕を「日本語」に設定する。これは映画館の字幕放映と同じ状態だ。この段階で、リスニングの力を鍛えながら、ストーリーを頭に入れる。

第二段階は英語の字幕に切り替えて、もう一度観る。

最後に字幕をつけないで、ネイティブと同じようにして観る。もちろん、中級者・上級者なら最初の段階を飛ばしてしまっても差し支えない。

映画のDVD の英語字幕を活用すると、リスニング能力だけでなく、速読の能力も伸ばせる。英語の字幕をどんどん読んでいながら、自分の耳で聞いた英語の理解が正しいかどうかを確認するのも、読解・速読の勉強と並行したリスニングの勉強になるのである。

次に『Roman Holiday (ローマの休日)』の中から、日常生活でも役に立つセリフを抜粋してみた。

□It' a deal.

(よし、決まった！)

□Here we go now.

. (さあ、いくぞ)

□I' m up to my ears in work.

(仕事で手一杯だよ)

□Are you sure?

(本当にいいのですか?)

□Do you like it?

(気に入った?)

□No, nothing like that.

(いいえ、そのようなものじゃないわ)

□Tell you what.

(あのね。いい考えがあるわ)

□They' ll have a fit.

(彼ら、腰を抜かすだろうね)

4. 心の映画を持つ

自分の人生において、特に感銘を受けた、「心の映画」を最低5本は持つとよい。

この「心の映画」の中で自分が俳優になったつもりで真似してみると、口調まで似てくるものだし、感情移入もしやすくなる。心理学的には、感情移入をすると対象人物のパーソナリティにまで入りこんでいくので、余計に心の機微が理解できるようになるだろう。自分が心から感動できる映画ならジャンルを問わないが、特にビジネスマンにお勧めなのが、やはりビジネス界が舞台になっている映画だ。例を挙げれば、『ウォール街』『摩天楼はバラ色に』『ディスクロージャー』『ジョー・ブラックをよろしく』『サブリーナ』などである。国際政治に興味がある人は『サーティーン・デイズ』などに挑戦してみるのもいいだろう。また法律や裁判用語に強くなりたいのなら『推定無罪』とか『ペリカン文書』などがある。

5. むすび

最後に、言語と文化を学ぶ際に決して忘れてはならないのが、人間の感性、情緒といった、深く人間性に根ざした問題であると思う。人間に対する深い洞察や豊かな感受性があるからこそ、コミュニケーションのための英語教育の理念が生かされるのではないだろうか。国際化社会の中で「使える英語」の必要性が強調される傾向にあるが、ともすると、英語によるコミュニケーションの技術の習得のみに終始してしまう危険性を一方では孕んでいることも忘れてはならないことだと思う。

参考文献

小池直己『映画で楽しむ役立ちフレーズ 199』学研、2003年

小池直己『映画のセリフで覚える使える英会話表現』PHP 研究所、2006年

小池直己『40歳から英語をものにする方法』PHP 研究所、2012年

アメリカ映画で学ぶ英語Ⅱ

人文科学部 実践英語学科 教授 小池 直己

1. 映画のDVDを活用した英語学習法

「英語でこういう言葉と話すと、相手はこんなふうに反応する」、こうした言葉のキャッチボールが会話には備わっている。そもそも人が言葉話すのは、誰かとコミュニケーションをとるためであって、ニュースやプレゼンテーションのように一方的に話すのは、例外的な場面といえるだろう。生きた英語、生の英語を学ぶためには、日常生活の場面を通して学ぶのが最も理想的であるといえるだろう。どのようなシチュエーションで、どのような英語表現を使うのが適切かどうかを理解し、判断するための英語教育教材として、正にアメリカ映画は最も理想的な教材の一つであると考えられる。ただ単に英語の教材としてだけではなく、アメリカ映画は殺伐とした現代社会の中で、孤独な人間の心に潤いを与えてくれる。その様な精神面における「癒し」の部分も映画には存在する。現代人の精神的なストレスを解消してくれたり、心に対して栄養を与えてくれるような映画を、これまでの人生の中でいくつか覚えているだろう。自分の心の支えとなっているような「心の映画」、自分がこれまでに感銘を受けたような映画を繰り返し見ることによって、ストレスをためずに、しかも新たな感動を伴いながら、いくつかの場面でどのような言葉が発せられたかが、記憶の中に鮮明に残っていく。感情を伴った経験は記憶の中に鮮明に残る。何の感動もなく、ただひたすら丸暗記しているような英語学習ではなく、ときには涙を流したり、ときには腹がよじれるくらい笑い転げたり、といった経験を通して、その場面が強烈に脳裏に焼きつけられるのである。それと同時に、映画の場面の中でどのような会話が交わされたかが、生きた記憶となって鮮明に心の中に残存しながら、脳裏に深く刻み込まれるのである。

放送ニュースの英語と映画の英語を車の両輪としてマスターすれば、日常生活のあらゆる場面で対応できる英語力が身についていくはずである。英語の得意な人の中には、映画好きな人が多いものである。最初は字幕スーパを見ながらでも差し支えない。聞き取れる英語が少しずつ増えていけばいいという、気軽な気持ちで洋画を楽しもう。映画の中ストーリーだけでなく、新たな楽しみが生まれるはずだ。

次に『Waterloo Bridge (哀愁)』の中から、日常生活でも役に立つセリフを抜粋してみた。

Here take this.

(これ、あげるわ)

How nice you look!

(君は何て素敵なんだろう)

I can't help it.

(仕方がないんだ)

You'll find out.

(後になれば、わかるよ)

Please leave me first.

(君から先に行ってくれ)

Keep well

(元気でね)

You are dismissed

(君はクビだ)

I' m fed up with her.

(もう、彼女にはうんざりだ)

2. 簡単な表現で心を動かす会話ができる

映画を見る際に特に注意すべきことは、中学校レベルの単語の組み合わせによって、人間の感情を的確に表現するような会話表現が数多く存在することである。日本人にとっては「言えそうでいえない表現」なのだが、これらの英語表現は驚くほど人の心の機微を伝えることができるのである。たとえば、大ヒットした映画『タイタニック』を例にとって、具体的な会話表現をピックアップしてみよう。女性主人公のローズがタイタニック号から海へ飛びこもうとしたときに、レオナルド・ディカプリオ演じるジャック・ドーソンが助けようとする。その場面でローズが、「来ないで！」と言うシーンがあるのだが、彼女が実際に英語で言っているのは” Stay away!” である。日本語字幕では「来ないで！」と訳されているのが、英語の原文に忠実に訳せば「離れた状態にとどまって」という意味である。「そこから動かないで、そこからこっちへ来たら、私は飛びこむから」という意味である。” Stay away!” の意味が分かると、今度は” Stay back!” もイメージも理解できるようになる。

3. 日常生活の中で英語を身に付ける

お金を使わなくても、まとまった時間がなくても、iPhone や iPod にダウンロードすれば、CNN や BBC のニュースを聞くことができる。このようにして絶えず海外の英語ニュースに接する機会を意識的に作ることによって、国際化社会の情報を素早くキャッチすると同時に実践的なコミュニケーションのための英語学習ができるのである。また、英語表現・英単語などを学べるアプリもある。たとえば、「Real 英会話」のように、毎日 1 フレーズ、ネイティブが使う英語表現が届くアプリや「英語組み立て TOWN」のように文法の語法問題（組み立て）をゲーム感覚でできるアプリがある。現代社会においては、これらのアプリを有効に活用することによって、日常生活の中で実践的なコミュニケーションのための英語力をアップさせることができるのである。

参考文献

小池直己『英会話の基本表現 100 話』岩波書店、2000 年

小池直己『英語嫌いの人のための英語』東洋経済、2006 年

小池直己『聞いて覚えるネイティブ英会話』学研、2013 年

旅と文学におけるロンドン

人文学部 実践英語学科 教授 渡辺 浩

今回は主にイギリスとロンドンに関する歴史の旅という視点を基に、ロンドンの誕生と発展の歴史を詳述するとともに、ロンドンの名所・旧跡、現在の観光地などの誕生と発展も付随して紹介する内容とした。また歴史的にみて、ロンドンに関係する文学者や作品なども紹介した。70名以上の方が参加して下さり、終始非常に真剣に聞いていただいたので、大変やりがいのある講演となった。

始めに私が初めてロンドンを訪れた時の体験や、絵画や文学で紹介されているロンドンの印象との相違などを語った時点で、かなり興味を示してくださる方もおり、また実際にイギリスに滞在経験がある方もいらした様子で、アンケートを拝見したところ、イギリスの歴史、特にロンドンの歴史等に絞った説明がかえってわかりやすく理解を深める結果となったと思われる。

ロンドンに関しては、有史以来イギリスの中心的な都市、また首都としての歴史も長く、そうした意味ではイギリスの発展とともに歴史を映し出してきた都市と言える。ローマがブリティン島に進出した時点ですでにケルト人たちの大きな集落ができていたようであるが、ロンドンという古代都市をローマ人たちが建設して以来、現代のロンドンに繋がるような発展を遂げてきた。ローマ時代の遺跡などが城壁や砦跡として多く残されており、バーヴィカン（物見やぐら）という地名も残されている。

日本では都は度々遷都されているが、英国の場合はアングロサクソン時代に一時期ウインチェスターなどが中心的な役割をはたしていた時期を除き、ロンドンが有史以来かなり実質的な首都としての役割をはたしてきたことは間違いない。そうした意味で英国にとってのロンドンは大陸ヨーロッパとの玄関口、また逆に侵入されやすい街としての特殊性を有することも含めて、密接に国の発展とかかわりあってきたと言える。

ロンドンの名所・旧跡は枚挙にいとまがないほどであるが、代表的なものとしてはローマ時代にすでにロンドン橋の基となるものが架けられ、アングロサクソン時代の末期にはセントポール大聖堂やウェストミンスター寺院の基となるものが建てられ、ノルマン王朝の初めにはロンドン塔が建設された。近世の初めにあたるチューダー朝においてはお狩場から出発したハイドパークをはじめとする公園や庭園の造成が活発となり、グローブ座などの劇場娯楽施設も建てられるようになる。1600年代においては、ロンドンではペストの流行や大火災を経験するが、これを契機に現代に直結する近代的ロンドンが誕生してくることになる。大火災以後、ロンドンでは木造建築が禁止され、天才建築家クリストファー・レンなどの活躍により、再建されたセントポール大聖堂やケンジントン宮殿をはじめとする近代都市の名に恥じぬ壮大な石造建築物が姿を現すことになる。

近代ロンドンの威容を完成させた時期はやはりヴィクトリア朝時代であろう。王室の常住宮殿としてバッキンガム宮殿が改築され、トラファルガー広場の完成や大英博物館の完備等、世界の帝国としての威容を整えることになる。

文学の面においても英詩の父と呼ばれるチョーサーは中世の末期、ロンドン方言で『カンタベリー物語』を著し、その後チューダー朝における近代英語に大きな影響を与えたシェークスピアの活躍は言うまでもない。『ロビンソン・クルーソー』や『ペスト年代記』を著したダニエル・デフォー

もロンドンでジャーナリストとしても活躍している。またヴィクトリア時代を躍動的に描いた国民作家ディケンズや名探偵シャーロック・ホームズを生み出したコナン・ドイルもこの時代にロンドンで活躍していた。

このように見てくると、ロンドンの誕生と発達はずなわち英国と英語の発展と表裏一体と言っても過言ではない。英国を代表する文人サミュエル・ジョンソンは「ロンドンに飽きた者は人生に飽きた者である」と述べているが、まさに古代から現代までロンドンは様々な形で飽きることがない魅力を提供しているのである。

今回この講座を聞いていただいた皆様のアンケートを拝見させていただいたところ、すでに英国やロンドンを訪問された方もおられたが、更にその歴史を知ることにより再訪してみたいところがあったとか、これから歴史的な知識を踏まえて名所・旧跡を訪れてみたいという多くのご意見を寄せていただき大変嬉しく感じた。これからまた機会があれば更にユニークな面での英国やロンドンの紹介を行いたいと願っている。



西洋演劇の受容

人文科学部 実践英語学科 講師 武部 好子

はじめに

2014年6月28日(土)午前10時より、就実大学E館401にて公開講座を実施した。申込者数は、6月19日の時点で95名であった。公開講座のタイトルは『西洋演劇の受容』とし、講義のテーマは「シェイクスピアを代表とする西洋演劇は現代の日本人観客にどのように受け入れられているのか。演劇の魅力と在り方に迫る。」とした。以下、概要を報告する。

1-1. 「西洋演劇の翻訳とは？」

当日は、梅雨空となり、95名の申込者数は67名の受講者数となった。第1部では、まず「西洋演劇の翻訳とは？」について、翻訳学研究辞典(Baker, Mona and Gabriela Saldanha, eds. *Routledge Encyclopedia of Translation Studies*. Second Edition. London: Routledge, 2011.)を引用しながら、演劇とは「小説や詩のように文学作品であると同時に、言葉が視聴覚のイメージを通して、立体的に舞台光景と一体化することが求められている」点を説明した。また、舞台上で演劇を上演する際「言葉は、照明・衣装・音響・装置といった言葉にならない要素と共に、舞台を構成する一要素に過ぎない」点を強調した。更に、言語学者ロマン・ヤコブソンによる「翻訳の定義と分類」について(Jakobson, Roman. 'On Linguistic Aspects of Translation'. In Lawrence Venuti (Ed.), *The Translation Studies Reader*. Second Edition. (pp. 138-143). New York: Routledge, 2000.)触れた。特に、演劇の翻訳において重要となるのは「言語記号を非言語記号体系によって解釈する」「記号間翻訳」であることを説明した。

1-2. 「サミュエル・ベケット演劇の受容」

続いて、劇作家サミュエル・ベケット(Samuel Beckett 1906-1989)による後期演劇作品の映像を実際にスクリーンで受講生に視聴して頂くことで「舞台空間で非言語体系を通して、書かれた戯曲の言語記号を解釈する」ことを試みた。視聴前に、1969年にノーベル文学賞を受賞したベケットの生涯・主要作品・日本における受容について紹介した。最初に、西洋演劇として、そのまま英国の俳優によって英語で上演されているオリジナルのベケット演劇を見て頂き、その後、同様の作品を能楽舞台で日本語に翻訳・上演されたものを視聴・比較した。ベケットの書いたセリフやト書き(セリフの間に書かれた舞台設定の詳細)を忠実に翻訳しながらも、能楽の型・舞・雅楽・能面といった非言語的要素を活用している点を伝えた。

2-1. 「翻案劇とは？」

第2部では、まず「翻案劇とは？」について、翻訳学研究辞典を引用しながら、翻案とは「起点テキストで述べられている状況が目標テキストの文化に存在しないときに別の状況に作り替える方法である」ことを説明した。また、アンソニー・ピムによる「文化翻訳」(Pym, Anthony. *Exploring Translation Theories*. London: Routledge, 2010.)について「文化翻訳理論の長所の一つは、テ

クストとしての翻訳だけに焦点を置かないことであり、関心の対象は文化プロセス一般であり有限の言語的産出物ではない」点も言及した。

2-2. 「ウィリアム・シェイクスピア演劇の受容」

次に、ウィリアム・シェイクスピア (William Shakespeare 1564-1616) の生涯と日本における受容について解説し、坪内逍遙が全戯曲を全訳したものが全一冊にまとまっている書籍『ザ・シェイクスピア』(第3書館 1989)をお見せした。その後、翻案劇がテキストとしての翻訳ではなく、より立体的なプロセスであることを検証するために、シェイクスピアの *Twelfth Night* (1601) 『十二夜』を取り上げた。最初に、シェイクスピアの故郷である英国ストラトフォード・アポン・エイボンで1994年にロイヤル・シェイクスピア・カンパニーが上演したオリジナル作品のパンフレットを回覧した。それと比較して、東京・歌舞伎座にて2007年に歌舞伎に翻案された蜷川幸雄演出による『十二夜』について、舞台写真やパンフレットを披露しながら解説した。歌舞伎俳優や演出家が「いかに歌舞伎の様式美を大切にしながらも、ほぼシェイクスピアの原作通りに運んでいるのか」そして「歌舞伎の世界にシェイクスピアを持ってくることはできないか」を考えながら上演したことを伝えた。日本人観客にとって歌舞伎として受容された『十二夜』は、2009年ロンドンのバービカン・シアターにて上演された。これは、西洋演劇が、日本の歌舞伎の型・舞・衣装・装置・照明・見得などの非言語的要素を通して「記号間翻訳」されたものが、英国の起点言語・文化に「逆輸入」されたものである点をアンソニー・ピムの「逆ローカリゼーション」を踏まえて解説した。

最後に、シェイクスピアの *The Comedy of Errors* (1594 『まちがいの喜劇』) を高橋康也が狂言に翻案し、野村萬斎が主演・演出した『まちがいの狂言』(2002)の映像をスクリーンで視聴した。双子の取り違えをテーマとしたドタバタ喜劇であるこの作品では、原作にはない「ややこしや」というフレーズを公演前後にコーラスする黒子達の存在も鍵を握る。高橋康也が「翻案によってシェイクスピアの普遍性はそれほどまでに豊かであるかが試されると同時に、挑まれているのは狂言の側でもある」(高橋康也「ああ ややこしや ややこしや—『まちがいの狂言』作者前口上」『まちがいの狂言』グローバル・バージョン DVD 2002)と意識した点にも言及した。

西洋演劇は、21世紀に入った現代の日本において、伝統演劇である歌舞伎・能楽・狂言の型・舞・衣装・謡・能面など非言語的要素を駆使しながら、日本人観客に受容され、更には、翻案された作品が英国の観客の前で披露されている。演劇は西洋にとっても、日本にとっても、共通の立体的な空間・身体芸術であるのだ。

おわりに

受講生の方々は熱心に耳を傾けてくださった。「一般市民の講座でありながら、力を抜くことなく真摯に取り組んでくださったことに感謝」「とても中身の濃い二時間でした」「内容は難しかったが説明は分かりやすかったです」「資料の字が大きく読みやすかったです」「時間の取り方もうまく最高の授業でした」というコメントを頂いた。

今後も、自分の研究を机上の空論に終わらせることなく、実社会と連携しながら、国や地域を超えて貢献していきたい。演劇が、言葉の壁を越えて、異なる言語文化間をつなぐ「架け橋」として芸術的役割を効果的に発揮できるように寄与していきたい。ありがとうございました。

『トム・ソーヤの冒険』は告発する

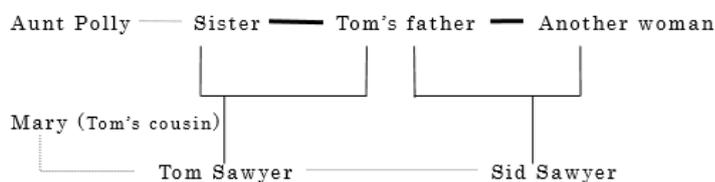
人文科学部 実践英語学科 教授 和栗 了

マーク・トウェイン (Mark Twain、本名 Samuel Langhorne Clemens、1835 年～1910 年) の代表作『トム・ソーヤの冒険』(*The Adventures of Tom Sawyer*、1876 年出版) は児童文学を代表する作品だと考えられている。大人が解決できない問題を純真な子供が解決するというパターンで、19 世紀から流行し始めるものだ。ミシシッピ河沿いの平和な町で、純粹無垢な少年トムが冒険を楽しみながら、町の中の問題を解決し、最終的に金持ちになる。トムがベッキー・サッチャー (Becky Thatcher) と仲良くなっても二人の間に性の問題は生じていないし、町の大人たちでも解決できないインジャン・ジョー (Injun Joe) の存在を葬ったのもトムだと考えられることが多い。トムは良心の葛藤も経験し、大きく成長する。トムはセントピーターズバーグ (St. Petersburg) という町の英雄であるだけでなく、アメリカ合衆国の理想像のように今日でも思われている。

実はこの作品は人生の、あるいは人間性の恐ろしい深淵を垣間見せる作品なのである。その表現方法は明確に書き表さないといういやらしいやり方である。最も深刻な例はシッド (Sidney Sawyer) である。彼はポリーおばさん (Aunt Polly) とは血縁関係がない。まずこの事実から証明する。

トムとシッドの父親はたぶん同一人物だろう。だからこそ二人とも「ソーヤ」という姓を名乗っている。もちろん別人物だとする説も成り立つ。その場合トムの母親とシッドの母親も別人物でないとポリーおばさんのトム贖戻が説明できない。また、もし別だとすれば、トムとシッドは兄弟ではなくなる。ポリーおばさんの子供たちに対する姿勢は後述するとして、ポリーおばさんのたぶん妹が生んだのがトムであり、トムを産ませた男性が別の女性との間にもうけたのがシッドだと考えねばならない。というのは、本文にある通り、トムとシッドは「片親違い」の兄弟 (half-brother) なのだから。この家の複雑な人間関係を図示すると以下のようなになる。

Family Tree of Aunt Polly



- Marital relationship
- Parental relationship
- Brother, sister, and cousin

ポリーおばさんからみるとトムは実の甥にあたるが、シッドは血縁関係のない、単に引き取って育てている子供なのである。当然おばさんはトムを大切に育てる。学校にも行かせるし、厳しく育てる。教会にも行かせ、将来は町の名士になるようおばさんは期待しているのだ。だからこそトムが失踪した時、おばさんはうろたえ、「私のトム」と叫んでしまう。このようなおばさんの姿勢をシッドはどんな気持ちで感じ取っていたことだろう。ついでに言う

と、メアリーもポリーおばさんと血がつながっていない。

ポリーおばさんと血縁関係のないシッドは金のかかる学校には行かせてもらえず、徒弟として働かされているのだ。この小説の学校の場面にシッドはいない。キリスト教の各教会が運営する日曜

学校にはシッドは参加している。もちろん、日曜日の礼拝にも参加している。だが金のかかる通常の学校にシッドの姿はない。この小説の舞台になったと考えられる 1850 年前後のミズーリ州ハニバルでは、学校の授業料は一週間で 10 セント強であった。今日の日本円で 1000 円から 2000 円程度だろう。貨幣経済が未発達だった 19 世紀のアメリカの田舎町では安い金ではない。トムはそれだけの金をかけてもらって学校に通っていても、シッドは行かせてもらえない。毎朝トムより早く家を出るシッドは徒弟として働かされていると考えられる。そしてそのわずかな収入でポリーおばさんの家計を助けているのだろう。トムとシッドとの対立は極めて深刻なのだ。ひとつの家の中で家の中心人物との血縁関係の有無によって二人の少年の待遇はまったく違うのだ。一方は徒弟として働かされ、他方は冒険を楽しんでいるのだから。

話をロビンソン医師殺害事件に移そう。この医者は医学の研究に熱心で死体解剖をやってみたいと考えた。町で死人が出て、埋葬された。医師として彼はその人物の死と死体を確認したのだろう。そして死体の掘り出しをマフ・ポッター (Muff Potter) という飲んだくれに 5 ドルで依頼した。墓地で「もう 5 ドル出さねーと死体はやれねー」と言ったのはマフ・ポッターだった。インジャン・ジョーではない。強欲でしかも悪いのはポッターなのである。

ところで、ポッターは「死体」を“she”と呼んでいる。掘り出した死体が女性の、しかも若い死体だったとすると、ロビンソン医師は性的倒錯者の可能性が出てくる。医学の研究という名目のもとで医師は女性の死体に欲望を掻き立てていた可能性がある。言うまでもなく、彼はこの田舎町の名士であり、尊敬されるべき人物である。ところが、その医師がおぞましい願望を秘めているかもしれないのだ。

医師に関してもうひとつ。墓場でのいざこざで最初に暴力をふるったのはロビンソンである。インジャン・ジョーが「インディアンの血をなめるなよ」とすごんでみせると、医師はいきなりジョーを殴り倒したのだ。それを見てマフ・ポッターが「おらの仲間に出しやがって」と言ってナイフを取り出したのである。あくまで手を出したのはロビンソン医師なのである。彼は喧嘩が弱かっただろうが、支配的人物としての驕りが手を出させたのだろう。作品の語り手はインジャン・ジョーに味方しておらず、ロビンソン医師を全くの被害者のように語るが、傲慢で最も憎むべき人物はこのロビンソン医師だ。

こうして読むと、インジャン・ジョーは悪人なのだろうか。マフ・ポッターよりも標準的な英語を使い、白日のもとや多数の白人がいる場ではほとんど発言せず、立派な白人のやりたがらない仕事をしているインジャン・ジョーはごろつきだろうか。白人優位社会で、しかも奴隷制度を認めているところで、彼は闇にまぎれるように、目立たずに、必死に生きてきたはずである。むしろ、作品の中で彼を悪人に仕立て上げた語り手の姿勢を解釈すべき時に来ている。

マーク・トウェインの作品はわかり易そうで分かりにくい。『トム・ソーヤの冒険』の語り手は一方的に白人に加担し、この物語をトムの成功物語にしようとする。だが、この作品はそうした物語を読みたがる読者をも含めて一見平和そうな社会を告発しているのだ。

怒濤の 20 年代と現代のアメリカ

人文科学部 実践英語学科 教授 長瀬恵美

1. アメリカのイメージ
 - 自由・平等
 - 豊かさの象徴
 - 世界一の国家
2. 怒濤の 20 年代を知る
 - 1920 年代とは
 - ヘンリー・フォード
 - スコット・フィッツジェラルド
3. 現代アメリカを知る
 - ニューフロンティア
 - 1960 年以降アメリカの変化
 - 今アメリカ社会で起きていること



今日のアメリカのイメージは、「自由と平等の国、豊かで、世界一の国家」であろう。そのイメージは建国時の理想に由来している。イギリスから独立し、その後「アメリカの夢」を実現するべく世界の各地から渡って来た移民の力により成長したアメリカの国章は上の図で示された通りである。この国章に描かれた鷲が啜えているリボンには、ラテン語で“E Pluribus Unum”と書かれている。この意味は「多数から一つへ」であり、多数の州から一つの国家が成り立っていることと、多数民族から成っているということの二つのことを意味している。

国家の下では全ての市民が自由で平等であるという理想を掲げ、18 世紀後半に東部 13 州で独立を果たして以来、領土を広げ、19 世紀末に今日の姿になったアメリカは次第に国力を高め、第 1 次大戦後にはヨーロッパの勢力を抑え、ついに世界一の大国となった。当時の、大量生産大量消費、映画やジャズの大衆文化、ラジオや自動車の新技術、摩天楼が立ち並ぶ都市化が進んだこの華やかな時代は「怒濤の 20 年代」や「黄金の 20 年代」とも呼ばれ、現代アメリカの原点とも言える時代である。



この時代の申し子が、産業の面ではベルトコンベアによるライン生産方式を導入して大衆車を作ったフォード社の創始者ヘンリー・フォードであり、文化の面では、20 年代を「ジャズ・エイジ」と名付けた小説家であり、従来の価値観に懐疑的になった若者たち「ロスト・ジェネレーション」の代表であったスコット・フィッツジェラルドであった。女性も参政



権を獲得し、既成の道徳観にとらわれない自由で新しい女性「フラッパー」が街を闊歩した。

アメリカ中が好景気に沸いたこの 20 年代も、1929 年には「暗黒の木曜日」をきっかけにして大恐慌時代に突入してしまった。しかし、ニューディール政策等の努力によりアメリカは再び蘇る。その後、1960 年代の公民権運動、ケネディ大統領のニューフロンティア政策を期にアメリカはますます「豊かで自由平等な超大国」としての地位を確固としたものにしてきた。

しかし、21 世紀になって、アメリカでは、建国以来ケネディ時代までアメリカが持っていた美德、すなわち「勤勉、正直、結婚、信仰」をもとにヨーロッパとは異なる国を作ろうとしてきたいわゆる「アメリカン・プロジェクト」は終焉し、現代アメリカ社会は上流と下層とに大きく分断されたと指摘する学者が現われ、大きな議論を呼んでいる。このロバート・パットナムという政治学者の言う「アメリカン・プロジェクト」とは国の富や国際的地位を高めるものではなく、建国と同時に始まった持続的努力、「人間は個人として、家族として、自らにふさわしいと思う人生を生きる自由を維持したままであっても、互いに力を合わせて社会問題を解決することができる」と実証する努力のことである。

現代アメリカでは貧富の差が拡大し、二極化が深刻化している。

建国の精神である「自由と平等」という言葉でさえ確保されているかどうかおぼつかない。誰のための自由であり、誰のための平等か、何が平等なのか、ということについても議論が絶えず、平等のために政府はどうあるべきなのか、大統領が変わるたびに再定義されている。現大統領バラク・オバマは選挙公約として掲げた医療制度改革「オバマ・ケア」をようやく実現させることができたが、銃規制法はとうとう実現することはできなかった。医療制度改革もずいぶん反対にあった。これも、「平等」に対する考え方が人によって異なるからであるし、銃規制法が実現しなかったのも「自由の権利」と「自分を守る権利」の統一ができなかったからである。



このようなアメリカの現状を、日本はもっと深刻にとらえ、アメリカは今や「追いつけ追い越せ」時代の理想の社会ではないことを認識し、同じ轍を踏まないための戒めとせねばならないのではないだろうか。人間の幸福とは何か、もう一度原点に帰って考え直すべきときに来ていると言えるのではないだろうか。

後期講座テーマ

「人生を楽しみましょう」

(平成26年10月4日～11月29日)

やる気の心理学

短期大学 幼児教育学科 講師 鎌田 雅史

1. 概要

就実公開講座「やる気の心理学」は、10月4日(土)の10:00～12:00に、本学T館208教室で実施された。受講者数は60名ほどで、年齢層は主にシニアが中心であったが、20代から80代まで幅広い方々の参加があった。本講座では、私たちの「やる気」について、身近な生活を振り返りながら、心理学の視点から考え、やる気を高め維持するための工夫を提案した。

2. 講義の概要

講義は、次にあげる4つのパートで構成した。

- ① 本講義の意味づけ
- ② 心理学とはどういう学問であるか？
- ③ 「やる気」の原則（基礎理論）
- ④ 「やる気」を高めていくために（提案と講義のまとめ）

以下に、それぞれの概要を示す。

① 本講義の意義付け

公開講座の目的は、私たちの「やる気」について、心理学的な立場から概説し、やる気を高めるための工夫の提案することで、受講者それぞれが、日常生活を振り返り「やる気」について主体的に考える機会を提供することであった。講義の冒頭において、心理学の講義と、あまり学術的に難しく捉え過ぎず、日常生活を振り返る場としていただきたいという趣旨について説明を行った。

② 心理学とはどういう学問であるか？

本講義は心理学の立場から、やる気の基礎理論について講義を行うものである。しかしながら、私たちの私生活は、「心」の持ちようだけでは、どうにもならないことも多いのが実際である。特に本講義は、日常生活を見直すという目的であるので、講座での提案事項について、沢山ある考え方の一つとして捉えて日常生活を振り返ってほしい。そこで講座のはじめに、簡単にではあるが、心理学とはどのような学問であるかという解説を行った。

具体的には、心理学という学問は、『①ころころという、捉えどころのないものを扱う学問であり、方法論として、②実験、調査、観察などの手法を用いて可能な限り、客観的にデータに基づいて研究をするという特徴を有し、③日常生活のなかで自明とされている現象について、あえて立ち止まり、つぶさに検討することでよりよい生活を築くための知見を生み出すものである。』という趣旨の解説をおこなった。また、講義で解説する「やる気」の理論は、決して目新しいものではなく、或る意味当たり前の提案であるが、だからこそ、その大切さをもう一度見直していくことが重要であると解説した。

③ やる気の原則（基礎理論）

やる気の原則と題し、心理学における動機づけの基礎理論を解説した。具体的には次に挙げる内容について、講義者の私生活での例を挙げながら説明を行った。

段階欲求説 … 「なりたい自分になる（ありたい自分である）」という自己実現の欲求が喚起し、やる気の基礎が形成されるためには、基本的な生活習慣や、基本的な欲求を満たす必要がある。

自己決定理論 … 自分にとって大切な事ほど、自分でよく考え決意するプロセスが大切である。

自己効力感 … 目標達成に向けやる気を維持していくためには、「目標に近づくために有効である」と確信できる（結果期待）行動について、「これなら自分ではできる」と感じる（効力期待）ことができる計画を立てることが重要である。

④ やる気を高めていくために（提案と講義のまとめ）

やる気を高めていくための提案として、以下の3つの提案を行った。

制御焦点理論から … 私たちを突き動かすのは、義務と理想である。（例えばダイエット）同じ行動であっても、義務から逃れるために行う場合（健康診断で引っかからないために）と、理想に近づくために行う場合（健康でいて娘と遊んであげたい）で、私たちの感情の在り方は大きく異なる。やる気を維持するためには、気の持ちようも大切で、物事のポジティブな側面を見つける工夫が重要である。

自己統制 … やる気を維持するためには、適切な目標設定や環境整備が重要となる。たとえば、肥満傾向にあるからといって、一年間で10Kg 痩せるのは至難の業である。10Kg という目標は、自己効力感を低めてしまうことがあり、やる気の維持は難しい。しかし1Kg 痩せる目標であれば、自己効力感を抱けるかもしれない。もし1か月で1Kg 痩せる目標を立て、1年間続けることができれば12Kg も痩せることができる。やる気を維持するための、行動計画は非常に重要である。

セルフモニタリング … 行動計画を立て実行するときは、カレンダーに○を付けるなど、簡便な方法でよいので、行動記録を残すことが重要である。また、家族など身近な人に宣言したり、協力を仰ぐのも有効である。行動の記録が形に残ることで、「自分はできている」という自信を生み、自己効力感が高まるとともに、もし身近な人の理解や承認、応援、協力が得られれば、やる気を継続しやすい環境を主体的に構成することが可能である。

3. まとめ

受講生は、とても熱心に講義を受けてくださった。受講者から次のような感想をいただいた。日常を振り返る機会となったのではないかと思われる。

「自分のやる気がなぜ続かないのかは、目標が高すぎて、かつ義務に追われてやっているからだ気づけたのが大きかった。自分ができるといふ自信を積み重ねることで、自己肯定感がはぐくまれていくのかなと思った（20代、女性）」

「自分の家で、まさに子供にたいして、やる気をそぐ行動をしてしまっていたと思いました（40代、女性）」

「むつかしいと思われていた心理学の一部がわかったような気がして楽しい講義だった。生活に生かしてゆきたいと思います（60代、男性）」

「日常気づいていないことを改めて確認できて大変良かったです。役に立ちます。（70代、女性）」

不登校と子どもの貧困

短期大学 幼児教育学科 教授 笹倉 千佳弘

1 人の多様性

「人はいろいろである」。

私たちは、この、ごく当たり前のことを忘れがちである。「人はいろいろである」ということを実感できるためには、その前提として、多様なものの見方が必要となる。たとえば、「水が半分入ったコップ」をみて、「水が半分しか入っていない」と思う人がいるかもしれないし、「水が半分も入っている」と思う人がいるかもしれない。両者のおかれている状況によって、「水が半分入ったコップ」が、まったく異なる現実として目の前に立ち現われているのである。

2 不登校のタイプと社会階層

上記で述べたことは「不登校」にもあてはまる。不登校といってもそれは一様ではなく、大きく、3つのタイプの分けることができる。具体的には、「神経症型」不登校、「脱落型」不登校、「意図的・学校拒否型」不登校の3つであるが、以下の議論では、神経症型不登校と脱落型不登校を取り上げることにする。

神経症型不登校の特徴は、登校しようとしても心理的な理由から登校できないという葛藤状況に陥っている点にある。脱落型不登校の特徴は、社会経済的要因に起因する家庭の養育力不足のために学校文化から脱落している点にある。私たちがマスコミなどをおしてイメージする不登校は、主として前者の神経症型不登校であり、後者の脱落型不登校が話題に上ることは稀である。

2つの不登校のタイプと社会階層との間には明確な関係があるのだが、その前に、社会階層について簡単に説明しておきたい。

私たちの生活スタイルというのは、人それぞれに異なっている。たとえば、社会的に威信のある仕事をしているかどうか、収入が多いか少ないか、学問・芸術などの精神活動が豊かであるかどうか、というような違いである。このように、人々の暮らしというものを社会的側面、経済的側面、文化的側面からとらえると、多くの場合、このどれか1つの側面に恵まれていれば他の2つの側面にも恵まれており、これら3つの側面に恵まれている人は高い階層に、そうではない人は低い階層に属していると言われている。まとめると、社会階層とは、「職業的な地位や所得、さらには学歴といった社会・経済的な資源が、階層性をなしている状態」のことである。

さて、神経症型不登校と脱落型不登校は、社会階層といかなる関係にあるだろうか。端的に言えば、神経症型不登校の子どもは、比較的、高い社会階層に属し、脱落型不登校の子どもは、比較的、低い階層に属するということである。同時に、不登校の子ども総体の中で、神経症型不登校が占める割合は低く、脱落型不登校が占める割合は高い。言い換えれば、高い階層に属する傾向にある神経症型不登校は、その実数において少なく、低い階層に属する傾向にある脱落型不登校は、その実数において多いということである。私たちの不登校イメージが神経症型不登校に傾いている点を勘案すると、不登校の実態は正確に理解されているとは言い難い。

3 学校基本調査における「不登校」の定義

ところで私たちが、不登校の子どもの人数が増えた、減ったと言う場合、その人数の元になっているのは学校基本調査である。学校基本調査では、不登校はどのようなものとして定義されているのだろうか。

学校基本調査では、長期欠席を「前年度間に 30 日間以上欠席した者」と定義し、その理由として、「不登校」、「病気」、「経済的理由」、「その他」の 4 つが挙げられている。具体的にみていこう。

不登校：「病気」や「経済的理由」以外の何かしらの理由で、登校しない（できない）ことにより長期欠席した者。

病気：心身の故障やケガなどで入院、通院、自宅療養のため長期欠席した者。自宅療養については、原則として、医師の指示や診断書の有無で判断されるが、本人の周囲の者が適切と判断した場合も含む。

経済的理由：家計が苦しく教育費が出せない、本人が働いて家計を助けているなどの理由で、長期欠席した者。

その他：「病気」、「経済的理由」、「不登校」のいずれかにも該当しない理由により長期欠席した者。

上記から、学校基本調査における不登校は、長期欠席の 4 つの理由区分の 1 つであることがわかる。長期欠席は「前年度間に 30 日間以上欠席した者」であるから、数え間違いさえしなければその数は正確である。しかし、「前年度間に 30 日間以上欠席した者」の欠席理由を、「不登校」、「病気」、「経済的理由」、「その他」の内からどれにするかについては、恣意的にならざるを得ない。以上から確認しておきたいのは、学校基本調査における長期欠席の数は正確であるが、不登校の数は正確でないということである。

4 長期欠席と社会階層

「Ⅱ 不登校のタイプと社会階層」でみたように、不登校の子どもの多くは、比較的、低い階層に属している。では、「病気」と「経済的理由」で長期欠席になる子どもは、どのような階層に属しているのだろうか。「経済的理由」で長期欠席になる子どもが、比較的、低い階層に属していることは容易に理解されるだろう。「病気」という理由で長期欠席になる子どもも、比較的、低い階層に属している。なぜなら、低い階層の特徴の 1 つである貧困によって、十分な栄養や必要な医薬品を得られないと病気になる可能性が高くなるからである。また、病気なったあとも、すぐに病院で治療できない場合が多い。以上から、「不登校」という理由の長期欠席の子どもに加え、「経済的理由」や「病気」という理由の長期欠席の子どもも、比較的、低い階層に属していることがわかる。

これまでの議論で確認していきたいことがある。それは、比較的、低い階層に属する子どもが不登校や長期欠席になりがちであるからといって、比較的、高い階層に属する不登校や長期欠席の子どもをないがしろにしてよいと主張しているのではない、ということである。どのような階層に属しているかにかかわらず、子どもへの適切な支援は必要である。大切なのは、先行するイメージに惑わされず、正確な実態を把握すること、そしてそのうえで、教育をめぐる議論を深めることである。

【参考文献】

井上寿美・笹倉千佳弘（2006）『育つ・育てる・育ちあうー子どもとおとなの関係を問い直すー』明石書店。
荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井 朗（2000）『教育の社会学』有斐閣。

実技講座（造形ワークショップ）アート入門：ようこそ！2000年後の世界へ

短期大学 幼児教育学科 教授 柴川敏之

はじめに

2000年後の未来をイメージしながら、簡単にできるアートに挑戦します。今回は、身近な材料を使って裏彩色を施した版画を制作し、さらにそれらを使った応用例を紹介します。

1 柴川作品の紹介「2000年後に発掘された現代」

私たちが生きている現代社会は様々な問題を抱えています。震災、津波、洪水などの自然災害のみならず、人的な災害とも言える戦争やテロ、核や原発、自然環境破壊などの問題が地球規模で深刻化しています。物質的には豊かで発展しているように見える現代社会は、2000年前に火山の爆発で滅びたポンペイの時代よりも更なる危機に瀕していると言えるかもしれません。現代社会もポンペイの遺跡のように発掘される日が来るかもしれません。

近年、私は「2000年後の発掘現場」から出土したという想定で、出土品（化石）タイプの作品を制作しています（図1・図2）。



図1. 作品の紹介



図2. 2000年後の出土品

2 作品制作の手順

今回のワークショップでは、「ローラー拓本」という技法で拓本（紙でできた化石）を作ります。「ローラー拓本」とは、拓本の技法をアレンジし、ローラーを使用して短時間でモノの形を写し取るという私が考案した方法です。幼児から高齢者まで簡単にできる技法です。今回は、一つの班を3人とし、6班で活動します。



図3. 身近なモノの構成

ステップ1「身近なモノを並べて構成」

「身近なモノ＝現代の象徴」ととらえて、身近なモノ（蚊取り線香、携帯電話、パソコンのキーボードなど）を机の上に自由に並べて構成します（図3）。

ステップ2「ローラー拓本」

並べて構成した身近なモノの上に、紙（模造紙または和紙）を被せて置きます。その上から黒インクを付けたローラーを転がすと、レントゲン写真のように様々なモノの形が黒く浮かび上がってきます（図4）。



図4. ローラー拓本

① 練習として半分サイズの模造紙で共同制作をします。一人が二筋ずつローラーを転がします。

② 次に発掘タイプの共同制作を行ないます。全紙サイズの模造紙を、机に並べた身近なモノに被せて隠します。班を入れ替えて、他の班の模造紙の上から一人ずつローラーを転がします。

ローラーを未来のスコップと考えると転がしていきます。この場合、何が出てくるかわからないので、まさに未来の遺跡を発掘しているかのような気分を味わえます。

- ③ 最後に本番として、和紙で好きな部分を隠し、黒インクを付けたローラーで写し取ります。こうして2000年後の「紙の化石」ができあがります。

ステップ3「裏彩色(うらさいしき)*」

次は、この2000年後の「紙の化石」に、2000年後の世界をイメージして、裏彩色という技法で色を付けてみましょう。裏彩色とは、絵を描いた和紙や布の裏側から絵具をしみ込ませる技法です。昔の仏画や日本画などで使われていました。版画では、柳宗悦のアドバイスを受けて棟方志功が手掛けたと言われています。



図5. 裏彩色

- ① 身近なモノの形を写し取った和紙の拓本を裏返して新聞紙の上に置き、霧吹きで和紙全体に水をかけます。

- ② 水でジュース状に溶いた6色（赤、青、黄、緑、橙、紫）の絵具の中から、2000年後をイメージする色を自由に選び、拓本作品の裏から着色します（図5）。絵柄と関係なく自由に塗っていきます。

- ③ 完成した作品を新聞紙の上に置いて水分を取り、重しをしてしばらく乾燥させます。

ステップ4「応用例の紹介」

乾燥した色の着いた拓本（以下、カラー拓本）を利用して様々な作品を作ってみましょう。ここでは、いくつかの作品例を紹介します（図6～11）。



図6. うちわ



図7. 扇子



図8. ティッシュボックス



図9. ブックカバー



図10. 絵手紙



図11. ランプシェード

参考資料

- ・鬼本佳代子、柴川敏之編著『大原美術館の80歳をお祝いしよう！プロジェクト | 記録集』大原美術館、2009年 *助成：文化庁平成22年度美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業
- ・柴川敏之ホームページ：<http://www.planetstudio41.com>

黒潮民俗 ー土佐室戸の漁業史ー

短期大学 幼児教育学科 教授 田中 誠

雄大な室戸岬が太平洋に突き出し、黒潮が荒磯を噛み、千古の昔から永遠に変わらぬ太平洋の波の音、荒れ狂う潮風の雄叫びを快い子守歌と聞いて先人は育ってきた。台地が海岸にせまり耕地の少ない土地柄の特異性からも、土佐室戸の人々はおおむね海を活動の舞台として生きてきた。

土佐の漁業の歴史を彩る津呂捕鯨組ー巨大な獲物を命がけで挑戦した先人の勇壮な血潮は、精神的伝統として現代の人々にも受け継がれ今なお脈々と波打っている。危険の中に突き進む不屈果敢の魂を持った海の男たちは、逆巻く万里の波濤を乗り越えて世界の海へ立ち向かい無限の海の宝庫を切り拓き続けた。

多くの先人が犠牲と血のにじむような苦闘の末に、遠洋漁業の一大王国「室戸・室戸岬」の名を、日本はもとより世界に確固たる地歩を占めるに至ったことは歴史的事実である。

わが国の食文化と土佐室戸の経済の礎を築いたのも、海の男たちであったことは周知のとおりである。遠洋航海に身を挺した男たちの、一室戸市住民の声を紹介する。

＜遠洋航海士のことを思うと、陸にいる男なんてどんな人でも半人前。どんなにすごい外車に乗ってしようと、どんな大会社の社長であろうとそんなに大した人間ではない。地に足がついていながら偉そうなことを言ったって、波をかぶって漁をする船乗り^{りょう}に比べれば偉くも何ともない。遠洋漁船は 5m、10mの波間に舳先を天向けたかと思った途端、ドドーンと落ち腹を打ちつけ、大波が船体を被り洗う。波間に落ちたらまた持ち上げられ、また叩きつけられる。本当に木の葉のように弄ばれる。逃げることもできない漁船という小さな“地域”の中で約 20 人の住民が、1年から2年の間、彼女、女房・子どもと別れ、年老いた両親のことを思い出しながら生活している。東京銀座、赤坂で政治家が上トロの刺身を食べられるのも、国民が、家族のみんなが、食べられるのも遠洋航海の働きがあるからこそである。＞

土佐室戸の漁業は、沿岸漁業に湧き、近海捕鯨に湧き、そして近海マグロ漁に湧き、地域経済の礎を築き、地域教育に貢献してきた。太平洋戦争が勃発して若者の出兵、油の使用禁止、水産物の統制等の苦難の時代を迎えた。また、戦後にはマッカーサーラインが設定され、あらゆる難局を乗り越え、講話条約により昭和 27 年に撤廃、「漁業法」の一部改正に伴い、海の男たちは苦難を乗り越え木船から大型鋼船の時代へと進み、シドニー沖、ケープタウン沖、ハワイ沖へと漁場を求め幸盛を迎えた。だが、昭和 48 年の第一次オイルショック、さらに 200 海里宣言、昭和 54 年に再び第二次オイルショックに見舞われ、減船の決定を余儀なくされ世界の最先端を誇った室戸・室戸岬のマグロ漁業は相次いで廃業、倒産へと歩むこととなった。

沿岸漁業（古式捕鯨含め）から近海漁業、さらに遠洋漁業へと発展を遂げた土佐室戸の漁業は国民の食生活、地域経済、地域教育に大きく貢献してきた。捕る漁業から栽培漁業へと時代が変わり、さらに若者の漁業離れという現実を味わうこととなった。水産を基盤として地位を築き上げた地域の経済、地域の教育も大きく後退した。だが、七つの海を駆けた水産人の精神は今も土佐室戸に生き続けている。

古式捕鯨

今から 380 年前、寛永初め（1624）頃、紀州地方で行われていた突き鯨の方法を取り入れ、多田五郎右衛門が捕鯨業を開始した。



写真 1（左側）：捕鯨山見跡（高知県室戸市椎名山見鼻^{やまみのはな}）

寛永初年（1624）土佐古式捕鯨の発祥と共に築かれ、明治末期の古式捕鯨終焉まで営々とその役割を果たした。

写真 2（右側）：鯨は「イサナ」と呼ばれていた。古事記（712 年）に久治良が表れる。



年	氏名	頭数
1584	百子	3
1597	文政	10
1602	文政	2
1607	文政	27
1609	文政	6
1811	文政	7
1813	文政	10
1817	文政	8
1836	天保	7
1838	天保	11
1840	天保	8
1845	弘化	2
1846	弘化	3
1847	弘化	4
1853	嘉永	6
1871	明治	4

写真 3（左側）：勢子舟に乗った漁師と鯨との闘い。

写真 4（右側）：浮津・津呂両組合（現：室戸・室戸岬）合計網捕鯨・捕獲捕鯨数。

近代捕鯨

明治 39 年（1906）にノルウェー式捕鯨が室戸に伝わり、近代捕鯨の時代に突入した。昭和 9 年（1934）母船式船団にて南氷洋捕鯨へ出漁。



写真 5（左側）：発砲の瞬間

写真 6（右側）：捕獲した瞬間

遠洋漁業の基地（室戸岬港）



写真 7（左側）：300 トン級の鋼船が七つの海へ出漁した外洋港。

写真 8（右側）：遠洋漁業の屋台骨として幸盛を誇った室戸岬水産会館（現在閉館）。

昔話を語り継ぐ

短期大学 幼児教育学科 准教授 澤津 まり子

1. はじめに

今から 50 年ほど前、私の幼い頃の楽しみは、祖母から昔話を聴くことであった。火鉢にあたりながら、あるいは寝床で「桃太郎」の昔話をよく聴いたものだった。家の前を小川が流れていたの、川をどんぶらこー、どんぶらこーと流れてくる桃をイメージしていた。ある時、祖母に連れられて祖母の実家に行くことになり、高梁川を渡し船でわたって行った。その家は、トイレもお風呂も母屋の外の別棟にあって、夜、お風呂行くのもいったん外へ出て、懐中電灯をもって行った。タヌキや狐が出てきそうで、それはそれは怖かったのを覚えている。私にはまさしく昔話の世界であった。

しかし、現代社会において家族の有り様は大きく変容し、家庭のなかで子どもたちは、お年寄りから昔話を聴くことはほとんど経験できなくなってしまい、「昔話は絵本や子ども向けのテレビ番組で知ってはいるけれど…」という人がほとんどである。文化としての昔話を、次世代にも語り継いでいきたいものである。

2. 昔話の特徴

岡山でも馴染みのある「桃太郎」を事例にして昔話の主な特徴を解説する。

1) 口承文芸

「桃太郎」は「むかしむかし、あるところに、おじいさんとおばあさんがいました」で始まる。時代・場所・人物を特定せず、口伝えで語られてきた口承文芸である。語られている時間の間だけに存在し、語り終わったら消えてしまう。目で読む文学と大きな違いである。

2) 世界中に分布

「桃太郎」は全国に 100 種類以上あるといわれている。「鬼退治物語」が原形で、小アジア辺りが発祥地という説もある。中国貴州省苗族「桃の子太郎」、朝鮮半島「四巨人」など、広い地域に類似した話がたくさんあり、日本固有の話ではない。つまり昔話は、世界中の各地で、民衆の間で口伝えされてきた物語といえる。

3) 形式をつけて語る

昔話は「むかしむかし、あるところに」、「なんと昔があっただけな」で始まり、「むかしこっぷりどじょうの目」、「いきがぼーんとぬけた」などで終わる。うその話を発端句と結末句で囲み、現実の世界からお話を隔離しているのである。

4) 3 回のくり返し

「隣の若い衆が、桃太郎さん、冬ごしらえをしに山へ木を切りに行きましようやあ、と誘いに来ると、桃太郎は今日はわらじを作らにあならん、次の日は背なあてを作らにあならん、その次の日は縄をなわにあならん、と何度も断る」。3 回という回数は、たくさんという意味の最小単位を表わしたもので、何回も誘われやっとう重い腰をあげて山へ行く桃太郎の、ものぐさぶりを強調している。実はものぐさな少年期は飛躍のエネルギーを蓄えているのである。

5) 若者が成長し、変化する姿を語る

「桃太郎」は、ものぐさな桃太郎がさまざまに変化しながら成長する姿を語っている。成

長の変化を短いストーリーの中で、はっきりした変化としてみせてくれる。子どもが育つ姿がメッセージとしていっぱい詰まっている。

3. 昔話を語る

部屋を暗くして、ろうそくを灯して、語りの実演を行った。

- ① なら梨とり：共通語で3回の繰り返しの展開を楽しむ
- ② 桃太郎：備中地方に伝わる独自の桃太郎を、岡山弁で語る

4. 昔話が発するメッセージ

昔話は子どもの成長に必要なもので、未知なものと出会う喜びや、既知なものとの再会の喜びがある。昔話のなかで、次々と新しい事件がおき、主人公は新しい体験を重ねていく。大好きな大人からナマの声で聴くことによって、精神的なやすらぎを求めており、何回でも聴きたがる。また、昔話には生きていくためには知恵と度胸が必要だという人生観が語られている。おろかさや悪知恵なども肯定的に語られることもあり、教訓ばかりではない、人間の世界を全体として映し出させている。私たちの先祖が心の糧として、想像の中の大切な遊びとして語っているのである。

5. 昔話の魅力

昔話は、代々語り継がれている間に磨きに磨かれて、耳で聴いてわかりやすいように、簡単明瞭な語り口になってきた。聴き手の心に食い入り、語り手への懐かしい思い出とともに、その心の中で永遠の生命を得る。口で語ることは、耳で聴くことと結びついてはじめて意味を持つのである。語る楽しみは、本来の物語の要素と語り手の個性とがひとつに溶け合い、命を吹き込まれた物語に変わるところである。聴く楽しみは、語り手の生の声や息づかいが聴き手の心の奥に届くと、自分で本を読むより、語り手が作り出す「お話の世界」を肌で感じとり、温かさ・優しさ・強さが伝わってくる。語り手と聴き手が創り出す相互作用は、終わった後の満足感、ほのぼのとした幸せ感となって表れる。時間と場を共有した両者による相乗効果が生まれる。

6. 昔話を語り継ぐ

世の中に、どんなに刺激の強い楽しみがあふれても、子どもは身近な人から直接聴きたがっている。人の声は心に訴える力をもっている。身近な大人（シニア世代）の、ゆったりとした雰囲気の中で聴く声がいい。ゆとりは人生を重ねていくなかで、楽しさも苦しさもいろいろ経験した末に身に付くものである。おおらかにどんな相手も受け入れることのできる、包み込むようなふところの深さが大切なのである。

昔話を語るということは、愛情も一緒に伝えている。自分は愛されている、信頼されているという思いがあれば、子どもは自分の力で自然に伸びていく。そういう思いは、お話をしてくれた大人の体温や声によって、知らず知らずのうちに子どもの中に形成されていくものである。お話を聴いているときに、自分が愛されている自覚はない。ただお話がおもしろくて聴いているだけである。時間が経って大人になったとき、ふと振り返ってみて「自分は愛されていたんだなあ」と思えたらそれはとても幸せなことである。昔話は人間の共有財産である。聴く楽しみを十分味わったら、少しだけ時間的余裕のできたシニア世代の方々に今度は語り手として活躍していただきたい。そのことによって、これからの人生がより豊かになることを願っている。

<主な参考文献>

- 1) 山陽新聞社編集局編著『おかやま桃太郎伝説の謎』 山陽新聞社、1995。
- 2) 小澤俊夫『改訂昔話とは何か』 小澤昔ばなし研究所、2009。

健康増進のためのヴォイストレーニング

短期大学 幼児教育学科 准教授 ズビャーギナ山田章子

1. はじめに

WHO が発行する「世界保健統計」では昨年に引き続き今年も日本は長寿世界一となった。特に日本人女性の平均寿命は87.0歳で世界最長、男性においても80.0歳となり喜ばしい結果である一方、定年や子育てを終えた後の自分の人生をどのように過ごすのか、人口の高齢化に伴って「健康」を意識する年齢層はますます拡大する。そこで本講座では「人生を楽しみましょう」をテーマに、ヴォイストレーニングや歌唱で健康を増進するための取り組みを行った。

2. 胸式呼吸と腹式呼吸

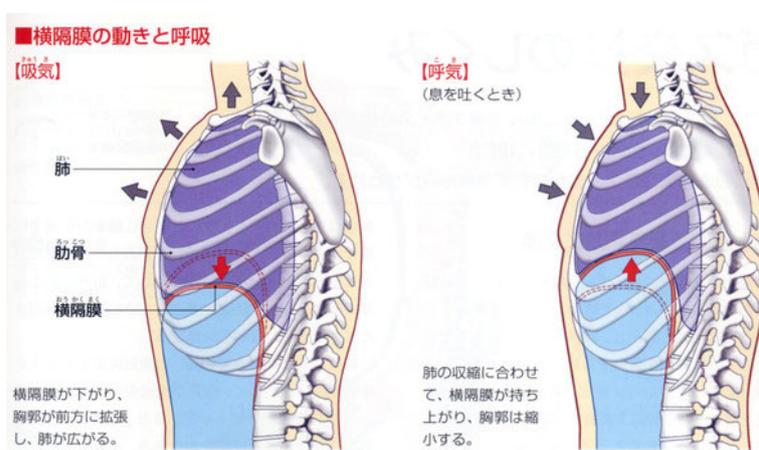
肋骨の間を広げたり狭めたりする動きに伴って、その内側にある肺の容積を変化させるのが胸式呼吸である。一方、歌唱の際重要視される腹式呼吸は、横隔膜の上下運動によってその上にある肺の空気容量を変化させようとするものである。胸式呼吸と腹式呼吸はどちらか一方を使うというのではなくその割合である。横隔膜の実際の動きを確認するため、レントゲン写真を使った実験をDVDで観て、ふたつの呼吸法を実践してみるとその違いを実感することができる。

(参考 DVD「声の不思議～美しい声を作るために～」解説・監修：米山文明 制作・発売：音楽の友社 2007年)

3. 吸気と呼気のコントロール

歌唱の際、「音程が取れない」、「高い音が出ない」、「息が続かない」といった悩みを持つ声が多く聞かれるが、その一番の原因は呼吸法によるところが大きい。歌おうとして人はまず息を吸い込むが、その吸った息が声とともに十分吐ききれないまま次のタイミングでさらに吸おうとする。その時の体の状態は肩が上がり首（喉）がつまる。上半身の緊張から高音はもとより音程全体が不安定になるという結果がもたらされる。

肺は空気を取り入れるために自ら拡張したり収縮したりすることはできない。「息を吸う」ということは、胸腔や横隔膜の動きによって肺の容積を大きくし、それによって肺の中に自然に空気が流入するという行為である。したがって息を吸い込もうとする努力はあまり意味がない。歌唱の際は息を「吸うこと」より「吐くこと」に意識を向けることが重要である。歌唱時の呼気において横隔膜はできる限りゆっくりと上昇し、スムーズに動くことが望ましい。



[資料]ぜんぶわかる人体解剖図-成美堂出版より

4. 呼吸法に有効なトレーニング

胸周辺の筋肉や横隔膜を上手く広げるためには体全体を硬くせずリラックスさせた状態が必要となる。精神・心理面からのリラックスやヨガや気功などの呼吸法の直接的な訓練は効果的であるといえる。本講座では例として次のようなトレーニングを行った。

歌唱時を想定しながら、

① 4拍吸って4拍吐く→② 3拍吸って5拍吐く→③ 2拍吸って6拍吐く→④ 1拍吸って7拍吐くと徐々に吸気と呼気のバランスを変化させていく。①の場合、吸気が多すぎ数回繰り返して行くと逆に苦しくなる。呼気を次第に長く使うことで吸気のタイミングは1拍で十分であることが体得される。

5. 表情筋トレーニング

歌唱の際には普段の発話時より大きく口を開き、歌詞をはっきりと発音しようとするが、これは表情筋に作用し豊かな感情表現を生み出す効果がある。また、表情筋を活性化させることによって、口腔内健康や咀嚼・嚥下機能を向上させたり顔のむくみや皮下脂肪の肥大化を改善させたりする効果も得られる。表情筋を意識して動かし生き生きとした印象を与えるために、普段の自分の発話時の顔を鏡や録画で観て確かめたり、「早口言葉」などで楽しみながら滑舌を良くする練習を行ったりすることが有効である。本講座では CD「ゆうがたクインテット」(ワーナーミュージックジャパン 2006年)より“12. 早口言葉うたおう”を使用し歌に合わせて表情筋エクササイズを行った。

6. 歌唱

今回は、2014年9月からスタートしたNHK連続テレビ小説「マッサン」の主題歌「麦の唄」を取り上げ、次のような手順でレッスンをを行った。

- ① まず歌詞の内容を把握し感情表現すること、表情筋を意識して動かし滑舌よく発音することに留意して朗読する。
- ② 次に3連譜の歌い方、曲の構成、盛り上げ方などに着目し楽曲分析を行う。
- ③ 伴奏に合わせてメロディーを歌う。

7. まとめ

今回は42名(女性33名、男性9名)の参加があり、20代から80代の幅広い年齢層の方々が熱心に講義に耳を傾け、楽しそうに実技に臨んで下さったことが大変印象的であった。今後の取り組みに活かすため健康に関するアンケート調査を行ったところ、「健康のために一番大切だと思うこと」は、「運動」(42.8%)との回答が最も多く、次いで「食事」(38.1%)、「精神面」(14.3%)、「睡眠」(4.8%)となった。それぞれの年代で「健康」に対する意識は高く、特に何らかの運動は前向きに生きる力を生み出し健康的な生活を送るために必要であると考えている。「歌うこと」は「運動」には分類されないが、筋肉を柔らかく使う全身運動であり内臓機能を高めストレスを発散するという意味ではスポーツに類似しているといえる。また高齢者の方にとって、ウォーキングなど他の運動に比べひざや腰への負担が少なく心拍数の上昇も緩やかであることから持続して行いやすい。芸術活動との融合を楽しみながら健康増進、人生を豊かに楽しむためにヴォイストレーニングを実践してはどうだろうか。

文化財講座

(平成 26 年 7 月 26 日)

赤穂の史跡、産業、漁港の町並みを訪ねる

人文科学部 総合歴史学科 教授 吉本 勇

2014年7月26日(土)に2014年度の文化財講座が開催された。テーマは「赤穂の史跡、産業、漁港の町並みを訪ねる」である。兵庫県赤穂市は赤穂浪士に関わる忠臣蔵でありにも有名であるが、そのほかにも見所は多い。赤穂城址周辺の古い町並み、史跡が多く残る旧城下町やかたて塩の町として栄えた歴史を学習するとともに、塩づくりが体験できる博物館、隣の坂越駅に足を延ばして、海に向かって歩けば、突然現れる古い漁港の町並みなどが魅力的である。今回は参加者26名と総合歴史学科教授の吉本と学生2名がアシスタントとして加わった。午前9時頃に就実大学正門を出発して山陽自動車道を走って赤穂へ向かった。

* 主要見学先

息つぎ井戸、赤穂歴史博物館、花岳寺、赤穂市立海洋科学館・塩の道、旧坂越浦会所、奥藤酒造郷土館、古い町並みなど。(なお昼食は赤穂ロイヤルホテル)

① 赤穂歴史博物館

平成元年に赤穂城清水門跡東に開館した建物で、白壁の土蔵建築とタイル張りの近代建築様式を組み合わせた外観であった。1階のテーマは国指定重要有形文化財の製塩用具の展示を中心とする「赤穂の塩」、2階は模型、絵図、出土遺物などを展示した「赤穂の城と城下町」、史実と文化の両側面からとらえた「赤穂義士」、出土遺物・映像で説明する「旧赤穂上水道」の4テーマで構成される。赤穂義士コーナーでは義士や忠臣蔵を映像で見られるミニシアターを楽しんだ。

② 花岳寺

浅野家の菩提所として建てられたものである。寺内には、歴代藩主のほかに大石内蔵助らの墓所をはじめ、四十七士の墓碑もあった。宝物館があり、義士連判状や書状、書画、刀剣などの遺物が多く保存されていた。参加者一同がテレビ、映画などでおなじみの忠臣蔵を思い浮かべながら参った。

③ 息つぎ井戸

藩主・浅野内匠頭の「江戸城刃傷」の知らせを持って早水藤左衛門、菅野三平両土が江戸を經ち、約600kmの道を飛ばして城下に着いた時に、彼らはこの井戸でようやく一息ついて大石邸の長屋門をたたいたことから由来される。遠く離れた江戸からの距離を思うとその様子が想像される。

④ 赤穂市立海洋科学館・塩の道

兵庫県立赤穂海浜公園内にある施設である。館内には塩、塩づくり、塩田、海をテーマとした展示物があり、屋外には再現された「入浜式塩田」や「流下式塩田」が見られる。われわれは流下式塩田で塩分を濃くした「かん水」を煮つめて塩をつくる作業を体験した。係員の説明の後、約30分の所要時間はクーラーがなく、火を焚く、とても暑い部屋

の中での作業であったが、参加者は童心に戻って頑張った。

⑤ 坂越浦会所（市指定文化財）

坂越浦は、瀬戸内海有数の廻船業地として江戸時代より重要な役割を占めていた。

旧坂越浦会所は、行政や商業などの事務所の機能を有する村会所として天保 2-3 年（1831-1832）に建築された。赤穂藩の茶屋としての役割もあった。2 階に藩主や家族が休憩や宿泊に使用する部屋（観海楼）が設けられている。ここでは事務所に詰めているボランティアの方からの説明を受け、当時の家屋が保存状態も良く残されていることに驚いた。

⑥ 奥藤酒造郷土館

古い町並みの中に重厚なたたずまいを見せている奥藤家および奥藤酒造記念館がある。西国大名の本陣にあてられ、築後 300 年の大きな入母屋造りの建物であり、白壁の酒倉は寛文年間（1661-1973）の建築である。郷土館には酒造、回線、漁業などの資料が展示されていた。大きな敷地に建てられた倉庫群に圧倒された。

とても気温の暑かった日でのバス旅行であり、参加者には申し訳ありませんでしたが、アンケートによると気温などを除いては概ね好評であったと思う。岡山周辺地域にはまだあまり知られていない魅力的な地場産業や町並みを有している町は数多く存在していることから、これを機会に小旅行を楽しんでもらいたいです。最後になりましたが、暑い中参加してくださった受講生の皆様、アシスタントとして同行してくださった学生たちに感謝する次第である。



義士の墓碑を囲んで



坂越の町並み散策



塩づくり体験の様子



再現された塩田

学科・研究所・センター等主催事業

主 催	人文科学部 表現文化学科		
行 事 名	就実表現文化のつどい 2014		
講 師	市田 京美、トーマス・デューシャトレ		
日 付	平成 26 年 5 月 17 日	場 所	本学体育館多目的ホール
対 象 者	本学科学生、一般者	参 加 人 数	約 47 名

概要

2014年5月17日(土) 午前10時より3時間、体育館多目的ホールにて、表現文化学科主催「就実表現文化のつどい 2014」を開催した。9回目にあたる今年度は、舞踊史上世界的にも重要な舞踊家であるピナ・バウシュ率いるブッパタール舞踊団(独)にて、初の日本人ダンサーとして約20年活動された市田京美氏と、トーマス・デューシャトレ氏を講師として我が大学に招き、ピナも重視したクルト・ヨーステクニックと創作法を学んだ。前半は「歩く」をベースにしたワーク、後半は映画「pina」(WIN WENDERS ヴィム・ヴェンダース監督)や、仏独合同制作のテレビ番組(仏版NHK教育テレビ)で放映されたという「春の祭典」稽古中の秘蔵映像を鑑賞し、制作現場におけるピナの様子やダンサーたちの状況・心情などについてのトークで盛り上がった。

ブッパタール舞踊団では約20か国のダンサーが活躍しており、そのほとんどがクラシックバレエの研鑽を積んで入団している。「ピナの要求は並大抵のものではなく、また長時間のトレーニングで技術を磨くだけではなく、ピナの世界観と対峙して最大限に自分の内面をアピールできれば舞踊団で踊り続けることはできない」といわれている。その一線で活躍してきた講師たちの動きと言葉に触れる体験そのものが参加者たちにとっては貴重な出会いであったと思われる。参加者らは「体の内側から動かす。すべての動きは連動しているという意味が理解できたように思います。貴重な体験をさせて頂き、ありがとうございました。」「写真や映像を見ただけでも、その世界に惹きこまれるのに、生で舞台を見たら、瞬きをするのも忘れそうです。」「ダンス(DVD)を見て鳥肌が立ったのは初めてでした。」「DVDでピナが指導している貴重な姿をみることで感動した。表現というのはあそこまで深くなるものなのかと思った。肉体さえあれば、衣装なんてなくたって力強い表現ができるのだとよく分かった。」「世界に立ち人のすごさを味わいたくて参加しました。『自分はこれに魅了されている。これがすべて』といわんばかりのオーラとまるで出会いを分け与えるかのようなご指導…自分のことばかりでなく、相手や空間、すべてのものに目を配らせ、心を配らせている姿に『一流』を感じました。」など、感激の声が多数寄せられました。



主 催	人文科学部 表現文化学科		
行 事 名	平成 26 年度表現文化学会 公開学術講演会		
招 聘 団 体	国指定重要無形民俗文化財		
日 付	平成 26 年 11 月 8 日	場 所	本学 R601 教室
対 象 者	表現文化学科学生、一般	参 加 人 数	学生 125 名、一般 25 名

概要

11月8日(土)に表現文化学会の総会及び学術講演会が本学 R601 で開催された。これは、毎年開催するもので、第1部総会、第2部学術講演会で構成される。本年度の第2部は、備中神楽の北山社を講師としてお招きした。神楽は宮中で行われる御神楽と民間で行われる里神楽があり、備中神楽は、出雲流神楽の里神楽に属している。出雲系の神楽は、神話を劇化した神能を中心に、演劇性、娯楽性を含んだもので構成され、人民に災いをなす荒ぶる神の怒りを鎮め、国土と人民の平穏と五穀豊穡を祈願する荒神神楽でもある。備中神楽は、文化・文政年間に高梁出身の神官、国学者の西林国橋が、記紀、古今和歌集などを参考に、能、狂言、歌舞伎などの芸能要素を取り入れて、演劇性の高いものへと作り上げ、備中地方に浸透していった。そして、昭和54年に国の重要無形民俗文化財の指定を受け今日に至っている。備中神楽を演じる神能社は多いのだが、今回、お招きした北山社はその中でも活発に活動されていて、昭和45年大阪万国博覧会公演、昭和53年宮中東宮御所での天皇陛下奉獻、昭和54年ブラジル、ペルー、アルゼンチン、アメリカでの海外公演等、内外での活躍がめざましい。備中神楽は、神話三曲よりなっていて、それが、「天岩戸開き」「国譲り」「八俣の大蛇退治」である。すべてを演じるには10時間以上を要するとのことであった。今回の講演では、「八俣の大蛇退治」の部分を中心に、それも簡略化して演じてもらった。まず、「猿田彦命の舞」で、天孫降臨の際に先払いをした猿田彦の命が、勇壮に舞い、東西南北の邪気を切り裂き、祓う。太鼓の野太い響きの中で、2人の舞手が、刀と扇を持ち、全身に力を漲らせての雄々しい舞である。次に、「大蛇退治」で、高天原に追いやられた素戔鳴尊が、櫛稲田姫を救うために、八俣の大蛇を退治する下りである。大蛇といえど、生あるものゆえ、無益な殺生はできないが、姫が妻になるならば、姫の仇は自分の仇となり、成敗する理屈が立つと言って、姫との婚礼を申し出る素戔鳴尊のなにやらの下ごころめいたものを感じ、少々笑ってしまった。次に酒造りの神、松尾明神の舞である。この舞手の上質な滑稽さと、観客のこころを逸らせない笑いのツボをおさえた、即妙の会話、歌謡には、心から笑ってしまった。大らかなものである。そして、「大蛇退治」のクライマックスでは、主役が大蛇であるため、素戔鳴尊の舞手は素面で舞う。能のワキの役割であるらしい。舞台狭しと二匹の大蛇がのたうちまわる間を、尊が大蛇を仕留めていくこの緊迫した舞台を、太鼓と甲高い笛の高低の音が相和して、盛り上げていく。参加者は学生が125名ほど外部からの参加者が25名ほどであった。観客全員が息をひそめて、舞台に見入っているのをありありと感ずるようであった。11月は神楽の奉納の大多忙の月であるにもかかわらず、本学での公演を承諾して下さった、北山社長、鳥越孝太郎氏をはじめ、社中の皆さんと、会を支えてくれた、教員、学生の皆さんにあらためて感謝する。



主 催	人文科学部 実践英語学科		
行 事 名	ITCL 第 41 回日本公演 就実大学公演『ロミオとジュリエット』		
招 聘 団 体	International Theatre Company London		
日 付	平成 26 年 5 月 21 日	場 所	本学 R601 教室
対 象 者	学生、教員、外学招待者	参 加 人 数	455 名

概要

平成 26 年 5 月 21 日(水)午後三時半より、10 回目を迎えたインターナショナル・シアター・カンパニー・ロンドン就実公演が上演された。今年の演目は『ロミオとジュリエット』。誰もが知る有名な悲恋の物語である。この演目は 2009 年にも上演され大評判であったが、今年は特にロミオを演じる俳優がアフリカの系男優であるところから、どのような劇になるのか大変興味を持っていた向きも多かったことと思う。結果として、偉大な作品は時代も場所も人種をも超えて人々に感動を与えることを改めて感じさせられた公演であった。

舞台はいつもに増して簡素であり、布を掛けて作った三つのスクリーンと四つの四角い箱。それにバルコニーの場面では庭を表現したスクリーンを加えて、あの有名なせりふ「おお、ロミオ、ロミオ、どうしてあなたはロミオなの？」が語られた。一目で恋におちたが、敵同士の家に生まれた故の確執に苦しみ悲劇的な最期を迎える二人のロマンスを中心としているが、シェイクスピアの面白さは悲恋の中にも、激しい格闘シーンあり、美しい歌声あり、ジュリエットの乳母をはじめとする愛すべき脇役による、巧みな言葉遊びなど多彩な仕掛けにある。ロミオの親友ベンヴェーリオがロミオを呼ぶ声「ロミオ——」が、聴衆の拍手が始まるまで続き、笑いを誘う場面もあった。そして最後は可憐ジュリエットの愛を貫く一途な心が涙を誘った。

毎年この企画は地域の方々に多大な好意をもって迎えられ、山陽新聞による観劇招待の呼び掛けには、掲載した当日の午前中ひっきりなしの電話があり、午前中にはほとんど予定の人数に達してしまうほどの人気である。今年は演目の有名さもあって、広島の高校からわざわざ観劇したいと申込があった。劇団の公演は観客の期待に充分応えて余りあるものであった。



主 催	人文科学部 実践英語学科		
行 事 名	2014 年度 就実大学公開学術講演会 英文学会		
講 師	岡室 美奈子(早稲田大学演劇博物館 館長、早稲田大学文学学術院 教授)		
日 付	平成 26 年 11 月 29 日	場 所	本学 T611 講義室
対 象 者	実践英語学科学生、 教員、学外の方	参 加 人 数	70 名

概要

2014 年度就実大学英文学会公開学術講演会は、早稲田大学演劇博物館館長・早稲田大学文学学術院教授の岡室美奈子先生をお迎えして、11 月 29 日（土）午後 2 時より T 館 611 講義室にて行われました。演題は「演劇のセリフを演じながら訳してみよう—シェイクスピアからベケットまで」でした。

早稲田大学演劇博物館は坪内逍遙の古稀とシェイクスピア全訳の偉業を記念して創設されたことから、講演の前半は坪内逍遙とシェイクスピアについてご説明くださいました。坪内逍遙が自身で翻訳した『ハムレット』を全登場人物の声色を変えて演じ分けながら生き生きと朗読している肉声のテープを拝聴する機会に恵まれました。

講演の後半では、岡室先生のご専門でもあるサミュエル・ベケットに焦点を当ててお話くださいました。暗闇の中に光で照らされた赤い唇が浮かび、その口から猛烈な勢いで台詞が発せられるベケットの戯曲 *Not I* の映像を拝見しました。岡室先生自身が 2009 年に翻訳された *Not I* は、これまで『わたしじゃない』と訳されていたタイトルが『あたしじゃないし、』という新鮮なタイトルとなり、その他のベケット後期作品についても、高橋康也・安堂信也による格調高い既訳を重んじながらも、岡室先生が「ベケット・カフェ」と題して「身体的に」若者にも分かりやすい翻訳・上演を心掛けられた貴重なエピソードを御披露くださいました。

最後に 2006 年に東京世田谷パブリックシアターにて上演された岡室先生の翻訳によるベケットの *Endgame* の映像を拝見しました。講演後、学生達からシェイクスピアやベケット演劇の受容翻訳や、翻訳のリズム感について質問があり、岡室先生と活発な意見交換が繰り広げられ、有意義な時間となりました。



主 催	人文科学部 総合歴史学科		
行 事 名	講演会「古代・中世の陰陽道と陰陽師」		
講 師	赤澤 春彦 (摂南大学 講師)		
日 付	平成 26 年 5 月 17 日	場 所	本学 E402 教室
対 象 者	本学学生、一般	参 加 人 数	100 名

概要

総合歴史学科では、怪異シリーズの一環として、陰陽道に関する講演会を主催しました。

講師は、中世陰陽道研究の第一人者である赤澤春彦氏です。

講演のはじめに『『陰陽』と書いて何と読むか?』という発問があり、答えは伏せられたまま、その謎を解いていく道筋で講演が進められていきました。

近年の学説では、陰陽道は中国の陰陽五行説を日本が受け止め、消化した上で、平安時代に日本独特の呪術宗教として成立すると言われていています。そうした視点を前提として、朝廷における陰陽寮の組織、構成員の役割、社会からの要請などが解説されました。

陰陽師には、占いとそれにもとづく意見具申、祓 (はらえ)、暦・天文などの役割が期待されており、公的な行事以外にも、貴族の家から要請されて、こうした仕事にたずさわることがありました。さらに鎌倉時代になると、鎌倉幕府に向向する陰陽師もあり、その人数は爆発的に増加します。しかし、室町時代には、陰陽道をつかさどる家系は限られてくる傾向があり、人数的にも陰陽師は減少していきます。江戸時代には、ごくわずかな人々が公認されるにとどまり、民間陰陽師とよばれる人々が民衆に陰陽道を伝えていくことになります。

「陰陽」は、中国から陰陽五行説が導入された段階では「いんよう」と読みました。日本で陰陽道が成立して以降、室町時代までは「おんよう」と読み、やがて江戸時代に民間陰陽師が活躍する頃には、「おんみょう」と読むようになりました。

この読み方には、まさに陰陽道のたどった歴史が凝縮されていること、現代でも陰陽道ブームがあるなど呪術への関心が高いこと、文明社会にあっても呪術宗教から脱却することは極めて難しいこと、などが指摘され、講演は終了しました。

質疑応答の時間では、神仏との関係、陰陽師への報酬、室町時代以降の展開などについての質問が出るなど、熱心に聞いて頂けたことがうかがえました。



主 催	人文科学部 総合歴史学科		
行 事 名	公開学術講演会		
講 師	佐藤 文子(佛教大学 非常勤講師)、吉田 一彦(名古屋市立大学 教授)		
日 付	平成 26 年 10 月 11 日	場 所	本学 T309 教室
対 象 者	一般	参 加 人 数	80 名

概要

前身の史学科創設 30 周年を記念して、「日本史学の地平を読みとく 一日本特殊論を超えて一」という統一テーマで、2 つの講演をおこなった。かなり専門的かつ大きなテーマながら一般聴講者も相応に集まり、反応も上々であった。講演の要旨は以下の通り。

今回の講演会のテーマは、日本史研究者はじめ一般に敷衍している「日本の歴史は常に東アジアのなかで特別なものだった。」という認識の克服である。そもそも顧みれば日本は、ほぼすべての分野において、多くを海外に依存してきた。そうした日本の歴史が、常に他の東アジア諸国と異なる特殊なものだったというのは不自然である。実際、近年の研究では、安易に日本の特殊性に結び付ける議論への反省が始まっている。そして今回の講演が取り上げたのは、こうしたなかで浮上して来た、さらに根の深い問題なのである。それは、この認識と同根でありながら、客観的説明のごとくに用いられてきた用語の存在である。本講演で取り上げた、奈良仏教を説明する用語としての「国家仏教」、そして平安中期文化を説明する用語としての「国風文化」は、そうした危険な用語の代表なのである。

実態を見る限り、奈良仏教イコール日本独自の「国家仏教」ではない。また「国風文化」とされる現象も、ほとんどは中国の影響下にあり、純日本風文化と呼べる内実ではない。一般に通用している「国家仏教」「国風文化」に該当する実態は、存在しないのである。しかしてこの用語・概念は、戦前の日本史学界や宗教界における国家主義的主張を背景として胚胎し、戦後それを十分克服できなかった学界において、1950 年代に作られた。それは政治的な背景から作られたのである。我々は、こうした用語に依拠した日本史理解（誤解）から脱却していかねばならないのである。



主 催	教育学部 初等教育学科		
行 事 名	初等教育学会公開講座 「遊びのチカラ」 ～幼児期に焦点を当てたアクティブ・チャイルド・プログラム～		
講 師	佐藤 善人（岐阜聖徳学園大学教育学部 准教授）		
日 付	平成 26 年 11 月 29 日	場 所	本学 R601 教室
対 象 者	学生、教職員、一般	参 加 人 数	約 250 名

概要

本年度の初等教育学会講演会は、体育教育学がご専門の岐阜聖徳学園大学准教授佐藤善人先生をお招きし、「遊びのチカラ～幼児期に焦点を当てたアクティブ・チャイルド・プログラム～」をテーマにご講演いただいた。

講演では、まず、その昔、日本各地どこでも日常的に見ることができた「子どもの遊び」について、当時の写真を用いて紹介が行われた。現在は、これらの遊びが減少したことで、体力・運動能力の低下、ストレスを抱えた子どもや我慢できない子どもの増加など、様々な問題を引き起こしていることが話された。

講演内容は、「①なぜ体力・身体活動が必要なのか、②体力・身体活動の現状、③ライフスタイルの問題点、④元気な子どもを育むために」の4点で、いずれも具体的なデータや実践を基に、とても分かりやすく、将来教職を目指す学生にとっては、非常に役に立つ内容であった。また、講話の途中で、ペアで楽しめる簡単な手遊びの紹介もあり、「遊びの楽しさ」を実感しながら、楽しく最後までお話を聞く学生の姿も印象的であった。

今回の講演を通して、多くの学生が、まずは自分自身が運動を好きになり、積極的に身体活動時間をもつようにしようという気持ちになったのではないかと思う。また、近い将来、教職に就いたとき、子どもの実態にあった遊びや可逆性のある遊びを提供できる教員になろうという気持ちも大いにもてたのではないかと感じた。



主 催	教育学部 教育心理学科		
行 事 名	親子フラ教室		
講 師	山田 美穂 (就実大学 講師)、下山 真衣 (就実大学 講師)		
日 付	平成 26 年 4 月 30 日 ～平成 27 年 3 月 25 日 (計 23 回)	場 所	本学 E101 模擬保育室、 T608 ダンス教室 他
対 象 者	乳幼児とその母親	参 加 人 数	のべ約 500 名

概要

○開催日：(平成 26 年) 4 月 30 日、5 月 9 日、5 月 28 日、6 月 13 日、6 月 25 日、7 月 11 日、7 月 30 日、8 月 7 日、8 月 19 日、9 月 10 日、9 月 24 日、10 月 1 日、10 月 17 日、11 月 14 日、12 月 3 日、12 月 12 日、12 月 24 日、(平成 27 年) 1 月 9 日、1 月 28 日、2 月 4 日、2 月 25 日、3 月 16 日、3 月 25 日

○時間：1～2 時間

○参加者

- ・対象者：岡山市内在住の乳幼児 (0～5 歳) と母親 (10 組が継続参加中)
- ・教員スタッフ：山田美穂、下山真衣
- ・学生スタッフ：教育心理学科学生がボランティア参加 (31 人が継続参加中)

○内容

ハワイの伝統的なダンスであるフラを軸にした子育て支援活動として、2011 年 7 月から活動を継続している。子どもたちにとっては、お姉さんお兄さん (学生) と遊んだり踊ったりという、普段とは異なる体験から学ぶ機会、母親にとっては、子どもから少し離れて心身を解放したり、他の母親や学生と交流したりする機会となることを目指している。

平成 26 年度の新たな試みとしては、「出張フラ」の活動を行ったことが挙げられる。外部の福祉施設を訪問して、利用者やスタッフの方々にフラを披露し、交流する活動である。今年度は社会福祉法人旭川荘 (8 月 20 日、2 月 24 日) と特別養護老人ホームライフケアももぞの (11 月 1 日) へ、計 3 回訪問し、温かい歓迎を受けた。この活動は、参加者を対象とした従来の地域貢献活動というだけでなく、参加者とスタッフがチームとなり、外へ発信していくという、新たな地域貢献活動のかたちなのではないかと考えている。



来年度も、学生スタッフの育成、活動時間の確保、子どもたちの成長に応じたプログラムの工夫などの課題に取り組みつつ、柔軟に、着実に、活動を続けていく予定である。

主 催	薬学部 薬学科 (薬学部公開講座委員会)		
行 事 名	第1回就実大学薬学部地域連携教育講座 「医薬品医療機器法になって、薬剤師はどう変わりますか？」		
講 師	森 和彦 (公益財団法人 先端医療振興財団 クラスタ推進センター統括監)		
日 付	平成26年6月22日	場 所	本学P201教室
対 象 者	薬剤師、卒業生、在学生、 一般医療従事者	参 加 人 数	72名

概要

本研修会では、先端医療振興財団の森和彦先生より、「医薬品医療機器法になって、薬剤師はどう変わりますか？」という題目で、9:30から12:30まで講演が行われた。

講演の冒頭では、昨年末に重要な法律改正・制定があったことが告げられ、薬剤師を取り巻く環境の変化への対応策について聴講者に質問が投げかけられた。また、これまで馴染みの深かった「薬事法」という名称が「医薬品医療機器法 (医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律)」へ変わることを知り、驚きを隠せない聴講者も多かった。

約3時間の講演は、薬剤師に関わりの深い法律の改正点と新しい制定、次いで、これらの背景となる科学技術の進歩と医薬品等の臨床開発・評価手法の改変についてという流れで行われた。まず、講演の前半では、医薬品の分類と販売方法の規制緩和について、一般用医薬品のネット販売に関する問題が取り上げられ、薬剤師にとって最も重要なことは、使用者側のメリットとデメリットを理解した上で、今後も積極的に薬学的知見に基づく対面的な情報提供と指導を行うことであることを強調された。また、講演の後半では、新薬開発はいわゆるブロックバスターモデルが終焉を迎え、バイオ医薬品、オーファンドラッグ、難病治療薬等の開発が注目されていることが紹介され、副作用と薬害との違いを区別し、国民と行政、医療側が一体となって「創薬」と「育薬」を推し進めることが重要であると提言された。

一方、講演会場は、あいにくの雨にもかかわらず法改正に関する情報収集のために足を運んで頂いた多くの聴講者で埋め尽くされ、森先生の講演を熱心に聞き入る姿が見受けられた。また、普段耳慣れない法律の専門用語が登場する場面においても、森先生の丁寧で分かりやすい解説が加えられ、始終何度もうなずきながら真剣にメモを取る聴講者も目立った。

以上のような講演と質疑応答を終え、最後に森先生から、国民と患者の大きな期待が寄せられている薬剤師・薬学関係者に向けた激励の言葉を頂き、会場からの盛大な拍手と共に講演会の幕を閉じた。



主 催	薬学部 薬学科 (薬学部公開講座委員会)		
行 事 名	第2回就実大学薬学部地域連携教育講座 「糖尿病と脂質異常症に関連した合併症の予防と管理」		
講 師	村上 和敏 (岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 総合内科学分野 医局長)		
日 付	平成26年8月31日	場 所	本学 T208 教室
対 象 者	薬剤師、卒業生、在学生、 一般医療従事者	参 加 人 数	98名

概要

本研修会では、岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 総合内科学分野 医局長の村上和敏先生より、「糖尿病と脂質異常症に関連した合併症の予防と管理」という題目で、9:30 から 12:30 まで講演が行われた。

講演の冒頭で、世界の糖尿病人口が2030年には5億人を超える見通しで、現在日本においても40歳以上の3人に1人が糖尿病または糖尿病予備軍であること、しかし実際に治療を受けている糖尿病患者の数はその10分の1程度の237万人であることから、今後の糖尿病予防、適切な治療を行うことの重要性を話された。糖尿病増加の背景は、食生活の欧米化、すなわち食事の脂肪の割合の増加や運動不足の一因ともなる自動車保有台数の増加と関連しているのではないかと指摘された。また日本人の特徴として、欧米人と比較してインスリン抵抗性は弱く、インスリン分泌能も弱いとのことであり、日本人における糖尿病の特徴が示された。講演前半では糖尿病の検査や合併症について詳しい解説があり、糖尿病患者はある種のがんにかかりやすいなどの新しい知見も示された。

後半は、脂質異常症に関する講演であり、動脈硬化のおこるプロセスや注意すべき身体所見、診断基準や分類について写真や表を用いた詳しい解説であった。

講演終了後の質疑応答では、熱心な聴講者からいくつも質問が寄せられた。村上先生が丁寧にお答えになり、会場の聴講者も皆納得した様子であった。糖尿病や脂質異常症は患者数も多く、薬剤師の日常の業務で接することの多い疾患であり、関心が非常に高いことがうかがえた。



主 催	薬学部 薬学科 (薬学部公開講座委員会)		
行 事 名	第3回就実大学薬学部地域連携教育講座 「薬剤師として押さえておきたいフィジカルアセスメント」		
講 師	山内 豊明 (名古屋大学大学院 医学系研究科 基礎看護学領域 教授)		
日 付	平成26年9月23日	場 所	本学 T208 教室
対 象 者	薬剤師、卒業生、在学生、 一般医療従事者	参 加 人 数	98名

概要

本研修会では、名古屋大学大学院 医学系研究科の山内 豊明先生より、「薬剤師として押さえておきたいフィジカルアセスメント」という題目で、14:00 から 17:00 まで講演が行われた。

山内先生は内科医として勤務されたのち渡米して米国で登録看護師 (RN) 並びに Nurse Practitioner の資格、看護学博士号を取得し、帰国後日本の看護師の資格も取得され、現在看護学の教鞭をとっていらっしゃる。冒頭、副題として「臨床推論の進め方」が提示され、フィジカルアセスメントは「バイタルサインから推論する」のではなく「かくかくのデータが必要であるから収集する」という明確な意図のもとに行われることが強調された。患者に対して次に何をすべきかの優先度を評価しつつ行動するために、バイタルサインが重要であること、脈拍、呼吸数、血圧、体温、意識レベルの取得に関して諸注意が述べられ、ショックの分類を通じて患者に触れることの重要性が強調された。講演の前半は臨床場面での意思決定のための推論のコツとして、「オッカムの剃刀とヒッカムの格言」の対比が挙げられた。

講演の後半はフィジカルアセスメントの構成から、より具体的な症状 (頭痛、胸痛、腹痛) の評価ポイント、エネルギー消費と酸素の運搬から見たフィジカルアセスメントの意義、情報伝達で陥りがちな失敗例 (ベッドからの転落事故、呼吸音の評価)、モニターの落とし穴などが取り上げられた。

最後に米国の薬剤師はよく薬を知っており病棟での配薬と服用の指導は RN が行うが、わが国の看護師はこの点が非常に弱いことが指摘された。最後に 10 分間の質疑応答が行われ、会場からの盛大な拍手と共に講演会の幕を閉じた。



主 催	薬学部 薬学科 (薬学部公開講座委員会)		
行 事 名	第4回就実大学薬学部地域連携教育講座 「エンパワーメントに基づく糖尿病薬の選択と服薬指導のコツ」		
講 師	岡崎 研太郎 (名古屋大学大学院医学系研究科地域総合ヘルスケアシステム開発寄附講座 講師)		
日 付	平成26年10月5日	場 所	本学 T208 教室
対 象 者	薬剤師、卒業生、在学生、 一般医療従事者	参 加 人 数	74名

概要

本研修会では、名古屋大学大学院 医学系研究科の岡崎 研太郎先生より、「エンパワーメントに基づく糖尿病薬の選択と服薬指導のコツ」という題目で、9:30 から 12:30 まで講演が行われた。

冒頭において、薬剤師と糖尿病患者の薬局における窓口業務の一場面を本学教員2名がロールプレイを実施し、受講者に対して糖尿病患者への服薬指導の問題提起とアイスブレイキングすることから始まった。一方的に受講するのではなく、会場全体が湧き、参加型の講演となった。

講演内容として、糖尿病治療の難しさ、つまり、患者自身が食事や運動を行わなければ問題は解決していかないことが強調され、その支援の方法としての「エンパワーメント」の考え方が述べられた。その特徴的な事例として、まず“患者が決める”ことにあり、インスリンが過量で倒れる患者がいたとしても、その投与量を減らす際には必ず患者の声や意思がないと減量しない等の話題提供があった。講演の後半では、具体的な糖尿病の薬物治療について、患者のインスリン分泌能や抵抗性および経済性を踏まえた上での治療薬の選択、および、患者によるインスリン自己注射の導入の方法などが取り上げられた。

最後に実際のインスリンの自己注射キットの使用体験があり、初めて使用するキット製剤もあり、終始、会場が湧きあがった状態で講演は終了した。



主 催	薬学部 薬学科 (薬学部公開講座委員会)		
行 事 名	第5回就実大学薬学部地域連携教育講座 「有害な高線量放射線と有益な低線量放射線」		
講 師	須藤 鎮世 (就実大学 教授)		
日 付	平成26年11月30日	場 所	本学 T208 教室
対 象 者	薬剤師、卒業生、在学生、 一般	参 加 人 数	68 名

概要

本研修会では、就実大学薬学部の須藤鎮世教授より、「広島・福島再訪：有害な高線量放射線と有益な低線量放射線」のテーマで、9:30 から 12:30 まで講演が行われた。

一時帰宅者の放射能汚染スクリーニングに関わるボランティアに参加した経験から福島県内で試みた放射線量の測定について福島第一原発事故による放射線の影響について講演された。講演のなかで紹介された測定は、地下からによる空中 5 m の高さにわたり行われ、一部はβ線とγ線とを分けたり、放射線量 (cpm = counts per minute、1 分間あたりの放射線数) と実効線量 (マイクロシーベルト/時間 = $\mu\text{Sv/h}$) とを同時に測定したりした。さらに、ガイガーカウンターを用いて 4、5、6、および 7 月に茨城県守谷市における汚染状況を測定し、得られたデータを紹介しながら有害な高線量放射線と有益な低線量放射線について講演された。

質疑応答では、有益な低線量放射線の活用について、参加者より活発な質問が寄せられ、被災地の理解と放射線について積極的に学ぼうとする姿が伺えた。



主 催	経営学部 経営学科		
行 事 名	Think Globally, Act Locally －文化の発信基地としての瀬戸内文化圏の未来－		
講 師	ゲーザ・フォン・ハプスブルク（就実大学 客員教授） 大原 謙一郎（公益財団法人大原美術館 理事長） 福武 總一郎（公益財団法人福武財団 理事長） 蓑 豊（兵庫県立美術館 館長）		
日 付	平成 26 年 6 月 22 日	場 所	岡山国際ホテル
対 象 者	一般、教職員、学生	参 加 人 数	500 名

概要

2014年6月22日、岡山国際ホテルにおいて、就実学園創立110周年記念講演会を開催した。この講演会は、オーストリア・ハンガリー帝国皇帝の末裔、ゲーザ・フォン・ハプスブルク大の客員教授就任に合わせて、①瀬戸内の文化・芸術を通じた地域づくり・人づくりに対して、地元企業や大学は何が出来るのか、何をすべきなのかを考えるヒントを提供すること、②グローバルな視野を持ちつつ瀬戸内の文化資産を有効に地域振興に生かすことの出来る情操豊かな人材を創出することを目的に開催したもので、ハプスブルク教授の講演の他、大原謙一郎氏（公益財団法人大原美術館理事長）、福武總一郎氏（公益財団法人福武財団理事長）、蓑豊氏（兵庫県立美術館館長）など、瀬戸内海地域で世界を見据えた文化活動を牽引する方々を交えてのシンポジウムも開催した。

ハプスブルク教授は、現在の欧州の文化遺産や観光産業が如何に同家の保護・支援によって形成されたかをユーモアたっぷりに語られた。大原氏は美術館という世界に通じる文化の窓を通じて、子供達に本物の芸術に触れさせ眠っている想像力を発揮させたいと語られた。福武氏は、直島アートプロジェクトを実例に、在るものを生かして東京一極集中の対極にある幸せコミュニティの実現に向けた思いを披露された。蓑氏は、金沢や姫路における美術館活動で実証した、周辺の文化や経済を巻き込むことによる街と共栄する美術館の意義について強調された。

当日は、当学園の学生・関係者だけでなく、美術ファン、瀬戸内文化圏の地域振興、文化振興に関心のある一般の方々約500名が参加、会場フロアから多数の質問や意見が出るなど活気ある講演・シンポジウムとなった。



主 催	経営学部 経営学科		
行 事 名	第1回就実アカデミー「就実大学経営学部マーケティング実践講座」		
講 師	杉山 慎策（就実大学 教授）、谷口 憲治（就実大学 教授） 野本 明成（就実大学 教授）、大崎 泰正（就実大学 教授）		
日 付	平成26年11月8日、9日	場 所	本学図書館、P101 教室
対 象 者	一般	参 加 人 数	17名
概要	<p>11月8日（土）と9日（日）の2日間にわたり開催された。冒頭、杉山慎策経営学部長の地域と一体となった学部を目指し、これまでの「学習」ではなく「学修」を実践することが本講座の目的であるという開会挨拶の後、「どうすれば日本酒の消費量を増やすことが出来るか」というテーマで講義、フィールド調査、グループワークが行われた。</p> <p>経営学部の大崎泰正教授の「日本酒の変遷と岡山の酒造業」、谷口憲治教授の「日本酒と農村文化」の2講義の後、大学近くの宮下酒造株式会社の工場でフィールドワーク調査を行った。初日の最後には杉山慎策教授からソーシャルサイエンス、企業経営戦略、経営分析手法の解説があり、SWOT分析、PEST分析を用いて課題を考察し、解決策を発表するよう提案された。</p> <p>その後、受講者を3班に分け、課題解決の提案を考察するグループ研究に移った。受講生の年齢が20代から60代に及び、異業種、異分野で生活しているため講義で示された考え方やデータ及び次の日までに自らリサーチしたデータに基づき議論は深められ、2日目の4時までにはパワーポイントを作成し、発表された。その内容は海外市場開発が国内市場を拡大するというブーメラン効果、ターゲットを輸出拡大可能国に絞った対応策、女性に消費拡大策を絞った提案など、3班とも学修した手法を応用しながら説得力に富む発表が行われた。</p>		
			

主催	経営学部 経営学科		
行事名	ビル・エモットと語る日本再生と地域創生		
講師	ビル・エモット（就実大学 客員教授） 出井 伸之（クオンタムリープ株式会社代表取締役ファウンダー&CEO、元ソニー会長） 小嶋 光信（両備グループ 代表 兼 CEO） 石川 康晴（株式会社クロスカンパニー 代表取締役社長）		
日付	平成 26 年 12 月 11 日	場所	イオンモール岡山
対象者	一般、教職員、学生	参加人数	500 名
概要			
<p>12月11日（木）にイオンモール岡山内の未来ホールにおいて、「ビル・エモットと語る日本再生と地域創生」と題したフォーラムを開催した。本フォーラムは就実学園創立 110 周年記念事業として開催したもので、英誌エコノミスト元編集長で本年度より本学客員教授に就任されているビル・エモット氏の基調講演、さらに元ソニー会長の出井伸之氏の基調講演のあと、両氏に加え両備グループ代表小嶋光信氏及びクロスカンパニー代表取締役社長の石川康晴氏を交えての「地方は日本再生の原動力たりうるか」と題したパネルディスカッションが行われた。</p> <p>ビル・エモット氏は、日本の経済成長が鈍化している理由を、少子高齢化、非正規雇用の拡大、優秀な人材が生み出すイノベーションの不足にあるとし、日本再生に必要なのは人材の開発と育成強化に尽きると語られた。</p> <p>シンポジウムでは、岡山のグローバル化や経済再生の方向について、「海外展開と共に海外から人材や学生を県内に誘致することを考えたらどうか」（エモット氏）、「災害が少なく移住希望者も多い点をアピールしては」（出井氏）、「日本刀など優れた伝統産業を輝かせるべきだ」（小嶋氏）、「過疎地の再生を企業が担ってはどうか」（石川氏）など活発な議論が行われた。</p> <p>当日は、歳末の平日で雨天にも関わらず新設のイオンモールでの開催という話題効果もあり、500 名を超える盛況となった。</p> <p>なお、12月12日（金）には、ビル・エモット客員教授による経営学部学生向け講義「2050年の日本～その準備は出来ているか?」、12月13日（土）には全学向け講義「グローバル化の意味と影響」がいずれも図書館 5F、AV ホールで開催され、活発な質疑応答が行われるなど有意義な講義となった。この2講義は、学生、本学関係者の他、一般にも開放された。</p>			
			

主催	短期大学 幼児教育学科		
行事名	学生ボランティアグループ GBA による地域子育て支援の取り組み		
団体	学生ボランティアグループ GBA に参加する幼児教育学科 1・2 年生		
日付	平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月	場所	本学、学外（長船町）
対象者	就学前の子どもと保護者	参加人数	約 1872 名（親子述べ人数）

概要

幼児教育学科では、学生ボランティアグループ GBA による地域子育て支援活動を行っている。地域の就学前の子どもを対象に、学生が公演を行うとともに、遊びを主体とした交流を通して、相互に連携を深め、協働を図りながら、子育て支援体制を構築し、学生の専門的な知識や技術、コミュニケーション能力、社会意欲の向上を目的としている。9 年目を迎えた平成 26 年度は、子育て支援に加えて、『音楽』～みんなで楽しく♪ド・レ・ミ・ファ・ソ』をテーマに行った。下記に示す「就実やんちゃキッズ」及び「学外就実やんちゃキッズ」において、参加する保護者への虐待や子育てなどの相談窓口の提示、「やんちゃキッズ」への参加を通して子ども連れで参加できる場の提供を行った。

1) 「就実やんちゃキッズ～きてみてあそぼうでえ～」（平成 26 年 4 月～平成 27 年 1 月）

本学体育館を会場とし、年間 8 回の活動を行った。前半は、手遊び・パネルシアター・リズム体操・オペレッタの公演活動を行い、後半は様々な遊びを行うことのできる交流広場で構成している。毎回、100 名を超える子どもと保護者が訪れ、和やかな交流の場を持つことができた。



会場案内係



オペレッタ



交流広場（段ボールハウス）

2) 「学外就実やんちゃキッズ～きてみてあそぼうでえ～」（平成 26 年 9 月 24 日）

今年度の「学外就実やんちゃキッズ」は、長船町ゆめトピア長船（9 月 24 日実施、おかやま子育てカレッジ・瀬戸内市社会福祉協議会より依頼）で実施した。学内で行う「やんちゃキッズ」と同様に、前半は公演をし、後半は交流広場で地域の子どもの遊びの場の提供をした。「学外就実やんちゃキッズ」では、保育士、助産師の方に協力して頂き、子育て相談コーナーを設け、希望する保護者に向けて支援を行った。

主 催	短期大学 幼児教育学科		
行 事 名	潜在保育士復職プロジェクト		
講 師	幼児教育学科全教員		
日 時	平成 26 年 5 月 29 日～ 平成 27 年 3 月 10 日	場 所	本学及び就実こども園
対 象 者	本学科卒業生	参 加 人 数	31 名

概要

平成 26 年度、幼児教育学科では岡山県の委託事業として、潜在保育士の復職推進事業に取り組みました。8 月に幼児教育学科の卒業生 4,955 名を対象に潜在保育士の実態調査を実施しました。次に、以下の日程で 11 月から本学の卒業生を対象に、保育士の復職に向けて 7 講座の研修会を実施しました。参加者は 31 名でした。

情報交換会には、岡山県・岡山市・倉敷市の保育園・幼稚園課の担当者を招き、求人情報や勤務内容等、具体的に伺いました。また、卒業生の中から現職の園長及び若手の職員を 1 名ずつ招き、保育園の現状やどういう思いで日々の保育をしているかなど、保育現場ならではの情報を提供していただきました。さらに、3 日間の就実こども園での体験実習と救命救急の実技研修を行い、現場復帰に向けての後押しになればと願っています。

日 程	内容 (午前 10 時～12 時)	講師	内容 (午後 13 時～15 時)	講 師
11 月 8 日	①保育指針(最新の保育事情)	澤津	②音楽表現(器楽・声楽)	秋山・山田
11 月 29 日	③障害児保育	田中	④身体表現	松本
12 月 13 日	⑤環境・言語	山根	⑥造形表現	柴川
1 月 10 日	⑦相談事業	蔵永	⑧情報交換会	笹倉・鎌田
1 月 27 日	就実こども園での体験実習 (8時～16時)			
2 月 14 日	特別講演会 (救命救急) T608			
2 月 17 日	就実こども園での体験実習 (8時～16時)			
2 月 21 日	就実こども園での体験実習 (8時～16時)			



環境・言語



器楽



身体表現



保育園の現状について



復職に関する相談



救命救急

主 催	短期大学 幼児教育学科		
行 事 名	幼児教育学科 特別講演会		
講 師	小西 英子		
日 付	平成 27 年 2 月 13 日	場 所	本学 E402 教室
対 象 者	幼児教育学科 1,2 年生、 学外関係者	参 加 人 数	250 名

概要

平成 27 年 2 月 13 日（金）午後 1 時～2 時 30 分に本学 E402 講義室において、絵本作家の小西英子先生を講師にお迎えして幼児教育学科特別講演会が開催された。対象は幼児教育学科 1,2 年生と教員、また学外からは就実こども園、就実小学校、宇野保育園、浜保育園の職員、笠岡市公民館絵本読みきかせボランティアスタッフ、及び地域の絵本に関心のある方々であった。

小西先生は、「小西流 絵本作り」と題し、どのように考え、悩み、楽しみながらそれぞれの作品を生み出してきたかについて、エピソードを交えながら語られた。特に同じ幼児教育学科で教鞭をとられる先生が、学生たちとのやりとりをユーモアたっぷりに話される場面では、会場内に笑いが起き、皆が話に引き込まれる様子であった。さらに多くの絵本の読み語りをして頂き、作者自らの心のこもった語り口調に絵本に深くかかわる聴講者全員が聴き入った。

最後に学生代表よりお礼の言葉と花束の贈呈が行われ、大きな拍手に包まれて締めくくられた。講演終了後にはサイン会が開かれ、大切な一冊となる絵本を手にした参加者は絵本との関わりをより一層深めた様子であった。



小西英子先生



学生たちの様子



お礼の言葉と花束贈呈

主 催	就実短期大学 生活実践科学科		
行 事 名	就実短期大学 生活科学講演会		
講 師	一色 賢司 (北海道大学 名誉教授・日本食品分析センター 学術顧問)		
日 付	平成 26 年 11 月 5 日	場 所	本学 E401 教室
対 象 者	一般、学生	参加人数	180 名

概要

平成 26 年 11 月 5 日 (水) 16:30~18:00、「生活科学講演会」が、一般・学生、生活実践科学科 1・2 年生 100 名余を対象として、「フードチェーンを大切に—安全な食品の安定調達—」と題し開催されました。

講師の北海同大学名誉教授・日本食品分析センター学術顧問の一色賢司先生は、「フードチェーン」をキーワードとして、「食の安全」に関する重要な内容をグラフや図を交えて分かりやすく説明してくださいました。

「食」の現場の第一線で活躍して来られた先生のお話に、日頃、「食品衛生学」や「栄養学」を受講し、関心を深めている学生は熱心に聴講しました。学生からの質問にも丁寧に応じてくださり、講演を通して、「食の安全」は「フードチェーン」に関わる全ての人の「信頼」あってこそ成立するという大切な学びを得ることが出来ました。

110 就実短期大学 生活科学講演会
フードチェーンを大切に
—安全な食品の安定調達—
 北海道大学名誉教授・日本食品分析センター学術顧問
一色 賢司 氏

2014年
11月5日 水 16:30-18:00
 就実短期大学 E401講義室 岡山市中区西川原1-6-1
 受講料：無料 ※公共交通機関でお越しください

フードチェーンを大切に —安全な食品の安定調達— 概要

人間は従属栄養生物です。72億人にも増えています。食料資源の分化が進み、従属栄養生物であると認識していない国民も増えています。フードチェーンは、生物学分野では食物連鎖を意味する生物間のつながりで、食品安全上も重要です。人間から見た食料調達のプロセスは、農場や畜場の食料生産者から消費者までをつなぐ食品の流れのことです。フードチェーンの全過程で衛生管理を実施しなければ食品安全は達成できません。原因、残念ながら農産物の選入や表示の偽装等による不透明感が広がっています。講演では、リスク分析 (RA) とフードチェーンアプローチ (FCA) と呼ばれる対策を同時に実施する必要性に及ぼし、食料自給率の低い我が国におけるフードチェーンの脆弱性について説明します。

講師 一色賢司氏

昭和 59 年 3 月、九州大学大学院工学研究科修士課程修了。北九州市環境衛生研究所・農林水産省農産物の研究所・群馬の女子大学大学院の教授、独立行政法人農産物の研究所の食品衛生対策一員、内閣府食品衛生安全推進事務局の長官を歴任。平成 13~26 年、北海道大学大学院教授、北海道大学名誉教授。一般社団法人日本食品分析センター学術顧問。

国際食品安全学会 (International Association of Food Protection, 編集委員)、日本食品化学学会 (理事兼幹)、日本食品衛生学会 (幹事長)、日本動物衛生学会 (幹事長)、日本食品衛生学会 (2013 年 5 月まで理事、功労賞受賞) 他。

著書に「食品衛生学」東洋化学同人 (編訳者、2014) 「食の安全学」放送大学教育振興会 (共編訳者、2014)、「食の安全学」東洋化学同人 (編訳者、2014)、「食と健康」放送大学教育振興会 (共編、2012) 執筆中。

お問い合わせ 就実短期大学 教務課分室



主 催	吉備地方文化研究所		
行 事 名	古代地域史フェスタⅣ 西国における宗教の展開		
講 師	赤澤 春彦 (摂南大学 講師)、大田 壮一郎 (奈良大学 准教授)、湯浅 治久 (専修大学 教授)		
日 付	平成 26 年 10 月 18 日	場 所	本学図書館 AV ホール
対 象 者	一般	参 加 人 数	50 名
概要			
<p>下記の要領で、古代地域史フェスタⅣ 「西国における宗教の展開」を開催した。</p> <p>日時：2014年10月18日（土） 13：00～17：00</p> <p>場所：就実大学 附属図書館5階 AVホール</p> <p>所長挨拶 土井通弘（就実大学） 13：00～13：10</p> <p>報告1 苺米一志（就実大学） 13：10～13：30 「古代・中世における地域寺社モデル」</p> <p>報告2 赤澤春彦（摂南大学） 13：30～14：10 「古代・中世の西国と陰陽道」</p> <p>休憩 14：10～14：20</p> <p>報告3 大田壮一郎（奈良大学） 14：20～15：00 「室町期の地方寺社と中央の関係ー西国の状況を俯瞰する」</p> <p>報告4 湯浅治久（専修大学） 15：00～15：40 「西国における戦国仏教の展開ー安芸門徒と備前法華」</p> <p>休憩 15：40～15：50</p> <p>シンポジウム 15：50～17：00 司会 苺米 一志</p> <p>会の趣旨は、古代・中世の西日本（西国）における宗教の展開について、神祇・仏教・陰陽道などの視角から概観するものである。地域を限定したのは、西日本に宗教史の資料が豊富に残存しているからであり、特に岡山県地域では様々な宗教の展開が観察できるからである。</p> <p>苺米報告では、全国的レベルで古代・中世における神社・寺院の展開を概説した。赤澤報告では、播磨・備前・備中（兵庫県・岡山県）を中心に陰陽道がどのように展開していったかを明らかにした。大田報告では、禅宗や修験道を核として、京都と地方の寺社がどのように関わっていたかについて解説した。湯浅報告では、安芸国（広島県）における浄土真宗、および備前国（岡山県）における法華宗の展開について明らかにした。</p> <p>いずれも資料を具体的に用いて、実態を明らかにする報告であった。特に岡山県地域に関する話題では、フロアからの質問も相次ぎ、さらに学生からは、報告者が驚くほどの鋭い質疑も寄せられた。専門の研究者だけでなく、一般の社会人からも現地の資料について助言があるなど、シンポジウムの時間は活況を呈した。</p>			

主 催	就実教育実践研究センター（就実子育てアカデミー実行委員会）		
行 事 名	親子ふれあいタイム		
講 師	専任保育スタッフ 大学・短大教員 学生ボランティア等		
日 付	平成26年6月1日開始	場 所	就実こども園
対 象 者	0歳～5歳児の親子	参加人数	毎回約30名程度
概要			
<p>1 実施日：平成26年6月1日から毎週火曜日と木曜日、週2回（10：00～12：00）</p> <p>2 内 容：0歳から5歳までの乳幼児を持つ親子を定期的に受け入れ、就実こども園2階の子育て支援室で行った。火曜日はサークル活動としてクラスを決め、年間で計画した活動を楽しみ、木曜日はプログラムのない自由な形態で親子交流を実施した。また子育て講座として、身近な子育てに関する催し等を開催してきた。</p> <p>また、子育てに関する情報発信として「親子ふれあいタイム通信」等を継続して発行。子育て支援携帯電話ポータルサイト（http://shujitsu-kosodate.jp/）の運営も行った。</p> <p>3 参加数：約1,600人、ボランティア学生60人（平成26年12月末日現在）</p> <p>4 成果等：就実教育実践研究センターが地域のNPO、学校、保育所、町内会、企業、行政と協働して運営している「就実子育てアカデミー」の事業の一環として、本年度も親子ふれあいタイム事業を継続した。情報は広く知れ渡り、岡山市はもとより市外からの参加者もあるので、安心・安全の観点から予約制を導入している。</p> <p>就実こども園の施設を利用し、ゆったりと遊べる空間で、親と子どもがふれあう時間を提供できることは、他の親子と知り合う場となり、子育てについて意見交換したり友達を見つけたり親の願いにもかなうものとなり子育てを楽しむ輪が広がると考える。本学の学生も、子どもとその保護者にかかわる機会に恵まれ、直接体験を通して子ども理解を深めている。本事業を通して、異年齢児との交流を行う場、親同士の交流の場、親の子育て不安を相談できる場、親の学び場等を構築することができた。</p> <p>なお、本事業は岡山県備前県民局平成25年度おかやま子育てカレッジ地域貢献事業費補助金採択事業である。</p>			
			

主 催	就実大学・就実短期大学 図書館		
行 事 名	第5回図書館セミナー 「夢二の『生活美術』という夢」		
講 師	子川 さつき (夢二郷土美術館 学芸員)		
日 付	平成26年11月22日	場 所	本学図書館5階AVホール
対 象 者	一般	参加人数	44名

概要

11月22日(土)13時30分から、第5回就実大学図書館セミナーを44名の参加者を迎え開催しました。講師は子川さつき先生(夢二郷土美術館学芸員)と本学の加藤美奈子先生(就実短期大学准教授)でした。

このセミナーでは、まず加藤美奈子先生より「夢二の生涯」について説明があり、引き続き、子川先生による夢二の「生活美術」についての講演がありました。

竹久夢二は今年生誕130年を迎えた岡山出身の画家であり、詩人としても有名です。彼の描く愁いをたたえた美人画は「夢二式美人画」と呼ばれ、大正ロマンを代表する画家であり、「女十題」「黒船屋」「立田姫」等の数々の名作を残しています。

その一方で、彼の生きた大正モダニズムの時代は、都市生活者が急増し、今日の先駆けである大衆文化が開花した時代でもありました。その動きのなか夢二は、職業画家として、楽譜や書籍の装丁、広告ポスター、絵はがき、日用雑貨・浴衣のデザインなどを数多く手がけました。これは、夢二の“生活の中に美を届けたい”という思いからで、「どんたく図案社」という、日用品のデザインから広告コピー(キャッチフレーズ)、室内・外装のデザイン等、あらゆる装飾を手がける会社を結成の試みにまで至りました。「どんたく図案社」は関東大震災のため、潰滅しましたが、その後も夢二はあらゆるもののデザインを手がけ、近代グラフィックデザインの歩みに大きく貢献しました。

また、文筆の分野でも、数多くの詩・歌謡・童話など創作しており、かの有名な「宵町草」は、夢二の詩に曲が付けられて、全国的な愛唱曲となったのは周知の通りです。

セミナー終了後は、図書館2階に展示した本学所蔵の夢二資料を閲覧いただき、講師の子川先生とも歓談していただきました。



参加者の大半は、「夢二の新たな一面を知り、有意義なものであった。」という感想でした。中には、「美人画と女性との浮名ばかりの夢二像から、こんなにもたくさんの生活に密着したデザイン(楽譜や書籍の装丁、日用雑貨・浴衣デザインなど)を残しているのには、驚きでした。」と云った感想も寄せられました。

主 催	就実大学考古学クラブ（主催）、就実大学史学会（後援）		
行 事 名	就実大学考古学クラブ主催講演会		
講 師	大竹 直子（漫画家）		
日 付	平成 26 年 10 月 26 日	場 所	本学 B212 教室
対 象 者	本学学生、教職員、一般	参 加 人 数	約 50 名

概要

例年どおり、今年度も大学祭の中の催しの一つとして、就実大学考古学クラブ主催講演会（就実大学史学会後援）が開催され、このたびは漫画家の大竹直子氏をお招きして、『宇喜多氏と岡山の戦国時代』という表題でご講演いただいた。

大竹直子氏は埼玉県のご出身で現在もそこにお住まいである。1993年、角川書店ファンタジーDX『エステ・DE・西遊記』で漫画家デビューののち、日本の時代・歴史漫画を執筆。確かな時代考証と史料に裏づけられた耽美的な作風に定評がある。大の時代・歴史小説好きでもあり、雑草社『活字倶楽部』にて時代小説を紹介するコラムを11年にわたって連載。現在はリイド社『戦国武将列伝』に読み切りを連載している。宇喜多家史談会会員。著作に、宇喜多直家の半生を描いた『阿修羅の契』、『源平紅雪綺譚』、『写楽』（原作＝皆川博子）、『秘すれば花』、『しのぶれど』、『百々之助☆変化』（以上 小池書院）、『白の無言』^{とじま}（竹書房）、『肉食と草食の日本史』（本郷和人氏、堀田純司氏との共著、中央アート出版）などがある。

今回のご講演は、なかでも『阿修羅の契』の内容と重なる部分が多く、宇喜多直家とその周辺の魅力的な人物たちに光を当てたものであった。

以下は講演後のアンケートに記された感想の一部である。「後半になるにつれて、新しい史料や細かいエピソードが出てきて面白かった。」（20代）、「楽しそうに話して下さったので嬉しかった。頭によく入ってきました。」（30代）、「いろいろなお話が聞けてよかったです。岡山に住んでいるながら、岡山の歴史について知らないことが多く、勉強になりました。大変有難うございました。」（50代）、「大変良かった（講師が良かった）!!」（60代）等々。



出 前 授 業

所	属	薬学部 薬学科		
タ	イ	ト	ル	薬物はまやかしの快感～薬物のない学校生活のために～」
講	師	小野 浩重		
日	付	平成26年10月29日	場 所	岡山県備前市立片上高等学校
対	象	者	参加人数	67名
<p>(概 要) 薬物乱用に関する基礎的な知識の他、近年検挙率が高い「危険ドラッグ」の説明について依頼があり、「薬物乱用が招く諸問題、薬物乱用から依存・慢性中毒に至る過程、薬物乱用がもたらす悲惨な結末、薬物のない学生生活のために」を主内容とする講演を行いました。</p>				

所	属	短期大学 生活実践科学科		
タ	イ	ト	ル	オーダーメイド「栄養学」
講	師	畦 五月		
日	付	平成26年10月29日	場 所	福山市立福山高等学校
対	象	者	参加人数	48名
<p>(概 要) 栄養素を重視する「栄」養学に対して、個々の体質を重んじる中国医学に基づく食養生の考え方を「営」養学と呼びます。この「栄養学」の考え方を、食品の機能性(旬、食品の色、食性など)の面から触れ、体質に応じた食物を選択摂取していく必要性を解説しました。</p>				

所	属	教育学部 初等教育学科		
タ	イ	ト	ル	桃太郎像の変遷
講	師	渡邊 言美		
日	付	平成26年10月30日	場 所	兵庫県立姫路南高等学校
対	象	者	参加人数	23名
<p>(概 要) 教育学研究の方法論、特に教育史研究を通して現代の教育課題を捉える視点について講義しました。桃太郎の示す人物像はその時代の「理想の子ども」(健康優良児や強い兵士など)を象徴していること、時代によって望ましい子ども像は変化し、教材や絵本なども変化していくことを示しました。</p>				

所 属	就実短期大学 幼児教育学科		
タ イ ト ル	やる気の心理学		
講 師	鎌田 雅史		
日 付	平成26年11月17日	場 所	岡山県立岡山一宮高等学校
対 象 者	2年生	参加人数	約110名
<p>(概 要) 心理学の立場から、私たちのやる気についての基礎理論を説明した後に、やる気を高め維持するための具体的な方法として、適切な目的設定や行動計画の提案を行いました。受講生たちは、関心をもって、とても熱心に聞いてくださいました。</p>			

所 属	教育学部 初等教育学科		
タ イ ト ル	教育学入門～初等教育の歴史にふれよう～		
講 師	蘆田 智絵		
日 付	平成26年11月20日	場 所	愛媛県立丹原高等学校
対 象 者	教員養成課程進学希望2年生	参加人数	13名
<p>(概 要) 小学校や幼稚園がいつ、なぜ創られたのか、写真や資料等を通して初等教育の歴史にふれ、教育の大切さについて考えるという授業でした。参加された2年生はとても熱心に聴いてくださり、もし教員養成課程に進学したら、どんな先生になりたいかについて発表していただきました。</p>			

所 属	教育学部 教育心理学科		
タ イ ト ル	あなたや周りの人たちの大切な心と体を護るために ーいのち、からだ、性ー		
講 師	郷木 義子		
日 付	平成26年11月29日	場 所	吉備高原学園高等学校
対 象 者	2年生	参加人数	100名
<p>(概 要) これからの人生をより自分らしく輝いて生きていくために性の捉え方、大人になっていく高校生に、性の素晴らしさとともに、性に関するリスクを伴うことや責任を持つことの大切さを話しました。高校生が何を大切に考えるべきか、中でも近年増加している性感染症の問題を取り上げました。</p>			

所 属	教育学部 教育心理学科		
タイトル	感情の心理学～脳・心・行動～		
講師	岩佐 和典		
日 付	平成27年2月4日	場 所	岡山県立和気閑谷高等学校
対 象 者	高校1、2年生	参加人数	49名
<p>(概 要) 感情に関する心理学的研究の知見と理論を解説しました。感情がこころと身体の両方に関わるものであること、一つ一つの感情がそれぞれに特有の機能を有していること、感情的な問題の改善など、関連するテーマについて講義しました。</p>			

学外組織との連携・協働

主 催	就実大学・就実短期大学 茶道部		
タ イ ト ル	岡山後楽園 お庭茶会		
実 施 者	茶道部 (指導：本学非常勤講師 堀田 喜美子)		
日 付	下記の日程	場 所	岡山後楽園
対 象 者	一般来園者	参 加 人 数	各回 150～250 名

概要

【平成 26 年度 実施したお茶会（岡山後楽園）】

1 月 3 日	はつはるの会
3 月 2 日	ひなの会
5 月 18 日	なでしこ茶会
7 月 13 日	たなばたの会
11 月 22 日	もみじの会
12 月 14 日	くりすますの会

私たち茶道部は、地域貢献ボランティアとして岡山後楽園という歴史と由緒のある場所で、季節に合わせたお茶席をさせて頂きました。

「くりすますの会」では、児童文化部さんにご協力をお願いし、お茶席の合間にペープサートの出し物をして頂きました。お子様からご年配の方まで幅広い年代の方に好評で、普段とは違うクリスマスの雰囲気を楽しんで頂くことができました。

今年度で 7 年目を迎えたお庭茶会も、会を重ねるごとにお越し下さるお客さまも増えました。今後も皆様に喜んで頂けるお庭茶会を目指し、地域交流活動を続けていきたいと思っています。



なでしこ茶会



もみじの会

行 事 名	備前市と就実大学・就実短期大学との包括連携に関する協定書調印式		
日 付	平成 26 年 10 月 23 日調印	場 所	備前市保健センター

概要

平成 26 年 10 月 23 日（木）、本学と備前市は包括連携協定を締結しました。備前市保健センターで行われた調印式では、稲葉英男学長と吉村武司市長が協定書に署名し、教育、文化、医療、まちづくりなど 8 項目にわたる幅広い分野での連携が締結されました。相互の知的・人的資源の交流及び文化資源を活用することにより、活力ある地域社会の創造、人材育成を進めていきます。

【連携協力事項】

- (1) まちづくりに関する事項
- (2) 地域文化の振興に関する事項
- (3) 地域産業の振興に関する事項
- (4) 保健・医療等の健康づくりに関する事項
- (5) 相互の教育及び人材の育成に関する事項
- (6) 生涯学習に関する事項
- (7) 学術研究に関する事項
- (8) 相互の施設利用に関する事項



左から吉村武司市長と稲葉英男学長

各種学外委員会の応嘱

所 属	人文科学部 表現文化学科	職 位	教 授	氏 名	川崎 剛志
内 容	①国文学研究資料館 国文学文献資料調査員 ②日本山岳修験学会 理事 ③仏教文学会 委員				
期 間	①平成13年4月1日～現在 ②平成23年10月1日～平成25年9月30（評議員）、同年10月1日～現在（理事） ③平成24年4月1日～現在				

所 属	人文科学部 表現文化学科	職 位	教 授	氏 名	山本 光久
内 容	①岡山県高校「文芸道場」コンクール 雑誌部門優秀作品選考				
期 間	①平成27年8月27日～平成26年9月5日				

所 属	人文科学部 実践英語学科	職 位	教 授	氏 名	ローレンス ダンテ
内 容	①大学英語教育学会中国・四国支部研究企画委員、第53回国際大会運営員				
期 間	①平成26年4月1日～平成27年3月31日				

所 属	人文科学部 総合歴史学科	職 位	教 授	氏 名	賈 鍾壽
内 容	①韓国文化財財団 研究委員				
期 間	①平成26年5月1日～平成26年12月31日				

所 属	人文科学部 総合歴史学科	職 位	教 授	氏 名	櫻田 美津夫
内 容	①岡山県NIE推進協議会（山陽新聞社内）「実践者」 ②出石しろまち工房の活用を考える会 「会員」				
期 間	①平成24年4月1日～現在 ②平成24年6月7日～現在				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	准教授	氏 名	楠 博文
内 容	①兵庫教育大学岡山会 理事 ②2014MATHコン 算数・数学の自由研究 審査員				
期 間	①平成25年4月1日～現在 ②平成26年6月1日～平成26年11月30日				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	教 授	氏 名	高橋 文博
内 容	①独立行政法人労働者健康福祉機構 岡山労災病院 倫理委員会委員 ②日本学術振興会大学再生加速プログラムペーパーレフェリー				
期 間	①平成22年4月～現在 ②平成26年5月～平成27年3月				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	准教授	氏 名	岡田 信吾
内 容	①岡山県 多様な学びの場特別支援教室事業連絡協議会委員 ②岡山県 特別支援学校における自立活動指導力向上事業助言者				
期 間	①平成26年4月1日～平成27年3月31日 ②平成26年4月1日～平成27年3月31日				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	教 授	氏 名	村中 由紀子
内 容	①倉敷市育児相談員 ②岡山県青少年健全育成促進アドバイザー ③岡山県人権政策審議会委員 ④岡山県人権教育推進委員会副委員長 ⑤笠岡市立笠岡西中学校学校運営協議会スーパーバイザー ⑥岡山市ふれあい公社児童館運営委員会委員 ⑦岡山市青少年問題協議会副会長				
期 間	①平成13年4月1日～現在 ②平成13年4月1日～現在 ③平成17年6月16日～現在 ④平成21年4月1日～現在 ⑤平成23年4月1日～現在 ⑥平成23年7月1日～現在 ⑦平成26年4月1日～現在				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	柴田 隆司
内 容	①岡山県薬剤師研修協議会 委員 ②公益財団法人日本薬剤師研修センター 研修会モニター				
期 間	①平成26年4月1日～平成28年3月31日 ②平成26年4月1日～平成28年3月31日				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	准教授	氏 名	島田 憲一
内 容	①岡山県薬剤師会 薬局委員会委員 ②薬学教育協議会 病院・薬局実務実習中国四国地区調整機構事務局長 ③岡山市介護認定審査会委員				
期 間	①平成20年4月1日～現在 ②平成22年4月1日～現在 ③平成25年4月1日～現在				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	洲崎 悦子
内 容	①津山洋学資料館 協議会委員				
期 間	①平成25年4月1日～平成27年3月31日				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	須藤 鎮世
内 容	①Mutation Research誌編集委員 ②Genes and Environment誌編集委員(Production Editor) ③日本環境変異原学会評議員 ④環境エピゲノミクス研究会幹事 ⑤JEMSレギュラトリーサイエンスWG (Working Group)委員				
期 間	①平成9年1月1日～現在 ②平成25年1月1日～平成27年12月31日 ③平成25年1月1日～平成27年12月31日 ④平成21年5月15日～現在 ⑤平成23年5月25日～現在				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	中西 徹
内 容	①岡山県環境放射線等測定技術委員会委員 ②(社)日本アイソトープ協会本部企画委員 ③日本アイソトープ協会放射線教育資料作成ワーキング委員 ④Pasteur Society Japan (日本パスツール協会) プレスリリース日本語版作成委員 ⑤日本軟骨代謝学会評議員 ⑥日本生化学会評議員 ⑦硬組織再生生物学会理事 ⑧日本食品衛生学会理事 (中国四国ブロック担当) ⑨おかやまバイオアクティブ研究会役員・企画委員 ⑩Editorial Board of ISRN (International Scholarly Research Network) Biochemistry ⑪「放射化学」教科書編集委員会 代表編集委員 (廣川書店)				
期 間	①平成22年4月1日～現在 ②平成26年4月1日～現在 ③平成25年4月1日～現在 ④平成15年4月1日～現在 ⑤平成11年3月1日～現在 ⑥平成17年10月1日～現在 ⑦平成16年10月1日～現在 ⑧平成25年3月1日～現在 ⑨平成25年10月11日～現在 ⑩平成24年5月1日～現在 ⑪平成25年4月1日～現在				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	西村 多美子
内 容	①日本薬学会 代議員 ②日本薬理学会 学術評議員 ③日本レギュラトリーサイエンス学会 社員（評議員）				
期 間	①平成23年4月～現在 ②昭和62年～現在 ③平成23年7月～現在				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	丹羽 俊朗
内 容	①Xenobiotica: Editorial Board (Informa Healthcare) ②日本薬物動態学会評議員 ③日本薬学会中国四国支部大学選出幹事				
期 間	①平成14年1月～現在 ②平成17年1月～現在 ③平成26年4月～現在				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	講 師	氏 名	古林 呂之
内 容	①岡山市薬剤師会薬物乱用防止推進委員会委員 ②公立私立大学実験動物施設協議会代議員				
期 間	①平成26年7月～現在 ②平成23年4月～現在				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	渡辺 雅彦
内 容	①日本気象予報士会岡山支部長				
期 間	①平成19年3月31日～平成27年3月31日				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	大崎 泰正
内 容	①倉敷商工会議所「吉備の国クラスター」推進委員会アドバイザー ②岡山商工会議所「イオンモール岡山出店対策検討委員会」アドバイザー ③特定非営利活動法人ハート・オブ・ゴールド監事				
期 間	①平成14年～現在 ②平成25年～現在 ③平成24年～現在				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	講 師	氏 名	櫻木 理江
内 容	①岡山県農林水産総合センター生物科学研究所外部評価委員会委員				
期 間	①平成26年7月10日～平成27年3月31日				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	杉山 慎策
内 容	①岡山市経済政策審議会等委員 ②岡山市基本政策審議会委員 ③平成26年度スーパーグローバルハイスクール運営指導委員会委員 ④津山市市政アドバイザー ⑤つやま産業支援センター運営協議会会長 ⑥津山市総合計画審議会会長 ⑦津山市観光戦略アクションプラン策定委員会委員 ⑧公益財団法人中島記念財団 ⑨岡山観光特使				
期 間	①平成26年11月15日～平成28年11月14日 ②平成26年11月15日～平成28年11月14日 ③平成26年7月1日～平成28年3月31日 ④平成25年4月1日～平成27年3月31日 ⑤平成26年10月1日～平成28年3月31日 ⑥平成26年4月1日～平成28年3月31日 ⑦平成26年8月22日～平成27年3月末日 ⑧平成25年10月28日～平成27年6月30日 ⑨平成25年4月1日～平成27年3月31日				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	野本 明成
内 容	①笠岡市施策評価委員会委員				
期 間	①平成26年4月1日～8月31日				

所 属	短期大学 幼児教育学科	職 位	准教授	氏 名	澤津 まり子
内 容	①岡山県保育士養成協議会 保育実習委員会 委員長 ②岡山県生涯学習審議会 審議委員 ③岡山市保育協議会第5ブロック保育研究部助言者 ④瀬戸内市次世代育成支援対策推進協議会委員				
期 間	①平成25年4月1日～平成27年3月31日 ②平成25年8月1日～平成27年7月31日 ③平成25年6月28日～平成29年3月31日 ④平成26年7月2日～平成27年3月31日				

所 属	短期大学 生活実践科学科	職 位	教 授	氏 名	足立 啓子
内 容	①全国健康保険協会健康づくり事業推進協議会委員 ②岡山県国民保護協議会委員				
期 間	①平成26年4月1日～平成27年3月31日 ②平成26年4月1日～平成27年5月11日				

所 属	短期大学 生活実践科学科	職 位	教 授	氏 名	国府島 泉
内 容	①日本細菌学会中国・四国支部評議員 ②瀬戸内市発ブランド商品開発・販路開拓支援事業審査委員会委員				
期 間	①平成元年～現在 ②平成24年～現在				

講師の派遣

所 属	人文科学部 表現文化学科	職 位	講 師	氏 名	岩田 美穂
実 施 日	①平成27年3月5日				
事業主催者（依頼元）	①ライフパーク倉敷				
内容（タイトル）	①言葉の歴史を探る～古典語から現代語へ～				

所 属	人文科学部 表現文化学科	職 位	教 授	氏 名	岡部 由文
実 施 日	①平成27年2月7日				
事業主催者（依頼元）	①笠岡市教育委員会				
内容（タイトル）	①笠岡市民教養講座「古典のコミュニケーション」				

所 属	人文科学部 表現文化学科	職 位	教 授	氏 名	川崎 剛志
実 施 日	①平成26年11月9日				
事業主催者（依頼元）	①和歌山県立博物館				
内容（タイトル）	①シンポジウム「9・10世紀の熊野と王権－熊野の神像へのまなざしから－」				

所 属	人文科学部 表現文化学科	職 位	教 授	氏 名	山本 光久
実 施 日	①平成26年11月22日				
事業主催者（依頼元）	①広島県高等学校文芸部連盟				
内容（タイトル）	①広島県高校文芸部連盟大会 講演「雑誌の在り処」				

所 属	人文科学部 実践英語学科	職 位	講 師	氏 名	武部 好子
実 施 日	①平成26年4月4日～6日				
事業主催者（依頼元）	①シアターX（カイ）（東京 両国）				
内容（タイトル）	①サミュエル・ベケット作 アイルランド劇団（Mouth on Fire） 来日公演 『ソロ』 上演前の劇団からのプレトーク 及び公演後の観客とのアフターミーティング における通訳				

所 属	人文科学部 総合歴史学科	職 位	教 授	氏 名	苅米 一志
実 施 日	①平成26年7月21日 ②平成26年8月28日 ③平成26年11月1日 ④平成26年11月29日 ⑤平成27年2月28日 ⑥平成27年3月29日				
事業主催者（依頼元）	①岡山県立博物館 ②学びのひろば 岡山 ③大学コンソーシアム岡山・吉備創生カレッジ ④岡山市立 西大寺緑花公園 緑の図書室 ⑤笠岡市教育委員会（中央公民館） ⑥学びのひろば 岡山				
内容（タイトル）	①金陵山古本縁起と西大寺観音院の歴史 ②日本中世の生活と経済 ③中世京都と鎌倉の「怪異」 ④著者が語る『備前国西大寺縁起絵巻』 ⑤中世の荘園を理解する ⑥日本中世の軍事と武力				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	准教授	氏 名	楠 博文
実 施 日					<ul style="list-style-type: none"> ①平成26年6月27日 ②平成26年8月6日 ③平成26年8月19日 ④平成26年8月20日 ⑤平成26年8月22日 ⑥平成26年9月11日 ⑦平成26年9月12日 ⑧平成26年10月9日 ⑨平成26年10月10日 ⑩平成26年11月7日 ⑪平成26年11月13日 ⑫平成26年11月28日 ⑬平成26年12月4日 ⑭平成26年12月12日 ⑮平成27年2月4日
事業主催者（依頼元）					<ul style="list-style-type: none"> ①赤磐市立山陽北小学校 ②津山市立西小学校 ③倉敷市立第一福田小学校 ④笠岡市教育委員会、笠岡市教育研修所 ⑤玉野市立後閑小学校 ⑥岡山市立幡多小学校 ⑦備前市立日生東小学校 ⑧玉野市立後閑小学校 ⑨高梁市立巨瀬小学校 ⑩高梁市立巨瀬小学校 ⑪玉野市立後閑小学校 ⑫赤磐市立山陽北小学校 ⑬小教研赤磐支会算数部会 ⑭高梁市立巨瀬小学校 ⑮三重県桑名市立多度北小学校
内 容（タイトル）					<ul style="list-style-type: none"> ①示範授業、研究授業の指導助言 ②講演「算数授業のユニバーサルデザイン」 ③講演「学ぶ楽しさを味わう算数指導」 ④講演「学ぶ楽しさを味わう算数指導～算数的活動の工夫を通して～」 ⑤講演「個の能力差に応じた算数指導の工夫」および指導案検討の助言 ⑥示範授業および研究授業の指導助言 ⑦研究授業の指導助言 ⑧研究授業の指導助言 ⑨研究授業の指導助言

	⑩研究授業の指導助言 ⑪研究授業の指導助言 ⑫研究授業の指導助言および講演 ⑬講演「算数に対する学習意欲と自信の向上を目指した算数指導の在り方」 ⑭研究授業の指導助言 ⑮講演「魅力ある算数の授業づくり」
--	--

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	教 授	氏 名	高橋 文博
実 施 日	①平成26年5月11日 ②平成26年11月9日				
事業主催者（依頼元）	①スーパー大学院運営委員会/NPO法人ヘルスサイエンス地域国際センター ②スーパー大学院運営委員会/NPO 法人ヘルスサイエンス地域国際センター				
内容（タイトル）	①高齢者介護の倫理 ②高齢者介護の倫理(2)				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	教 授	氏 名	丹生 裕一
実 施 日	①平成26年12月7日				
事業主催者（依頼元）	①三綱会（熊本県立御船高等学校卒の教職経験者の会）				
内容（タイトル）	①これからの教師に求められること				

所 属	教育学部 初等教育学科	職 位	講 師	氏 名	渡邊 言美
実 施 日	①平成26年10月30日				
事業主催者（依頼元）	①兵庫県立姫路南高等学校				
内容（タイトル）	①桃太郎像の変遷				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	教 授	氏 名	石山 貴章
実 施 日	①平成26年8月20日				
事業主催者（依頼元）	①高知県立山田養護学校				
内容（タイトル）	①キャリア教育の視点を踏まえた授業改善				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	准教授	氏 名	岡田 信吾
実 施 日	①平成26年4月25日 ②平成26年5月17日 ③平成26年5月23日 ④平成26年5月30日 ⑤平成26年6月25日 ⑥平成26年7月28日 ⑦平成26年8月5日 ⑧平成26年8月21日 ⑨平成26年8月27日 ⑩平成26年8月28日 ⑪平成26年10月27日 ⑫平成26年12月15日				
事業主催者（依頼元）	①倉敷市教育委員会 ②中国デザイン専門学校 ③倉敷市教育委員会 ④倉敷市教育委員会 ⑤岡山県立東備支援学校 ⑥岡山市教育委員会 ⑦岡山市立西大寺南小学校 ⑧岡山市立幸島小学校 ⑨岡山市立西小学校 ⑩大学コンソーシアム岡山 ⑪倉敷市 通級親の会 ⑫真庭保健所管内愛育委員連合会				
内 容（タイトル）	①新任特別支援教育コーディネーター研修会 ②発達障害のある生徒の理解とその支援 ③発達障害のある子どもの理解と支援～高等学校での取り組みと中学校までに身につけさせておきたい力～ ④通常学級において発達障がいのある生徒の参加を促進する学級コンサルテーションのあり方～中・高等学校での取組～ ⑤教職員研修会講師（コミュニケーションの指導について） ⑥問題行動のしくみと根拠ある指導 ⑦教職員研修講師（問題行動とその指導について） ⑧教職員研修講師（問題行動とその指導について） ⑨教職員研修講師（発達障害の理解とその支援） ⑩障害学生支援研修会（大学生の障がいに対する意識と教育課題） ⑪発達障がい 中学校卒業までに身につけておきたい力 ⑫発達障害について				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	講 師	氏 名	下山 真衣
実 施 日	①平成26年7月12日 ②平成26年8月11日 ③平成26年10月18日 ④平成26年11月29日 ⑤平成26年12月1日				
事業主催者（依頼元）	①チューリップの会（支援を必要とするこどもの社会参加を考える会in京山） ②備前市地域子育て支援拠点「わくわくる一む」 ③ラヴミントの会 ④ラヴミントの会 ⑤備前市地域子育て支援拠点「わくわくる一む」				
内 容（タイトル）	①発達障がい理解と支援 ②からふるサロン 発達障がいのある子どもとの関わり方(1) ③軽度発達障害児者の家族への支援 ④軽度発達障害児者の困った行動への親としての寄り添い方 ⑤からふるサロン 発達障害のある子どもとの関わり方(2)				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	准教授	氏 名	鈴木 薫
実 施 日	①平成26年7月25日 ②平成26年8月25日				
事業主催者（依頼元）	①岡山市教育委員会 ②岡山県教育委員会				
内 容（タイトル）	①岡山市新採用幼稚園教諭対象「保育中のけがや病気への対応」 ②岡山県経験年数研修講座経験15年養護教諭対象「保健室経営・健康相談活動」				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	教 授	氏 名	村中 由紀子
実 施 日	①平成26年4月26日 ②平成26年5月21日 ③平成26年5月21日 ④平成26年5月23日 ⑤平成26年5月25日 ⑥平成26年5月28日 ⑦平成26年6月4日 ⑧平成26年6月6日 ⑨平成26年6月7日 ⑩平成26年6月11日 ⑪平成26年6月14日 ⑫平成26年6月18日 ⑬平成26年6月28日 ⑭平成26年7月1日 ⑮平成26年7月11日 ⑯平成26年7月22日 ⑰平成26年7月27日 ⑱平成26年7月30日 ⑲平成26年8月1日 ⑳平成26年8月4日 ㉑平成26年8月18日 ㉒平成26年8月19日 ㉓平成26年8月20日 ㉔平成26年8月23日 ㉕平成26年9月19日 ㉖平成26年9月28日 ㉗平成26年10月1日 ㉘平成26年10月3日 ㉙平成26年10月8日 ㉚平成26年10月10日 ㉛平成26年10月16日 ㉜平成26年10月22日 ㉝平成26年10月24日 ㉞平成26年10月30日 ㉟平成26年11月5日 ㊱平成26年11月6日 ㊲平成26年11月8日 ㊳平成26年11月10日 ㊴平成26年11月11日				

	<p>④⑩平成26年11月19日 ④⑪平成26年11月26日 ④⑫平成26年12月3日 ④⑬平成26年12月12日 ④⑭平成26年1月16日 ④⑮平成26年1月23日 ④⑯平成26年1月29日 ④⑰平成26年1月30日 ④⑱平成26年2月6日 ④⑲平成26年2月14日 ④⑳平成26年2月21日 ④㉑平成26年2月28日 ④㉒平成26年3月2日 ④㉓平成26年3月5日</p>
<p>事業主催者（依頼元）</p>	<p>①岡山県人権政策推進課 ②岡山県立瀬戸南高等学校 ③備前市民生委員児童委員協議会 ④笠岡市教育委員会 ⑤香川県母子寡婦福祉連絡会 ⑥岡山県県民生活部男女共同参画青少年課 ⑦倉敷市保育協議会 ⑧岡山家庭裁判所 ⑨岡山県立岡山城東高等学校 ⑩岡山県県民生活部男女共同参画青少年課 ⑪広島県福山市教育委員会 ⑫山陽学園短期大学 ⑬倉敷市教育委員会 ⑭笠岡市教育委員会 ⑮岡山県県民生活部男女共同参画青少年課 ⑯総社市教育委員会 ⑰美咲町保育協議会 ⑱倉敷市人権教育研究協議会 ⑲岡山市教育委員会 ⑳高松市公立幼稚園教員教育研究会 ㉑岡山県保育協議会 ㉒財団法人岡山市ふれあい公社 ㉓岡山市人権問題研究会 ㉔岡山市公立保育園保護者連合会 ㉕山陽学園短期大学 ㉖国立吉備青少年自然の家</p>

	<p>⑳岡山県県民生活部男女共同参画青少年課 ㉑岡山市こども育成企画課 ㉒総社市教育委員会 ㉓岡山県県民生活部男女共同参画青少年課 ㉔高知大学教育学部 ㉕岡山県立岡山城東高等学校 ㉖笠岡市教育委員会 ㉗倉敷市公立幼稚園PTA連合会 ㉘岡山県保健福祉部子ども未来課 ㉙総社市教育委員会 ㉚就実こども園 ㉛財団法人岡山ふれあい公社 ㉜岡山市御南幼稚園 ㉝福山市暁の星幼稚園 ㉞ノートルダム清心女子大学附属幼稚園 ㉟ノートルダム清心女子大学 ㊱笠岡市教育委員会 ㊲岡山市教育委員会 ㊳山陽学園短期大学 ㊴岡山県県民生活部男女共同参画青少年課 ㊵岡山県県民生活部男女共同参画青少年課 ㊶岡山市教育委員会 ㊷牛窓ルンビニ保育園 ㊸丸亀市PTA連絡協議会 ㊹ライフパーク倉敷 ㊺美咲町保育協議会 ㊻笠岡市教育委員会</p>
<p>内容（タイトル）</p>	<p>①岡山県人権教育「ハートフル講座」講師 ②岡山県立瀬戸南高等学校教育相談講演会講師 ③平成26年度備前市民生委員児童委員協議会総会記念講演講師 ④第1回笠岡市立笠岡西中学校学校運営協議会スーパーバイザー ⑤香川県母子寡婦福祉連絡会総会記念講演講師 ⑥岡山県青少年健全育成促進アドバイザー制度・岡山市立南輝保育園保護者講演会講師 ⑦倉敷市保育協議会新任保育士研修会講師 ⑧岡山家庭裁判所調査官・技官研修会講師 ⑨岡山県立岡山城東高等学校保護者対象進路講演会講師 ⑩岡山県青少年健全育成促進アドバイザー制度・倉敷市立老松幼稚園保護者講演会講師 ⑪福山市立高島小学校保護者研修会講師</p>

- ⑫山陽学園短期大学附属幼稚園育児相談相談員
- ⑬倉敷市立琴浦西小学校保護者講演会講師
- ⑭第2回笠岡市立笠岡西中学校学校運営協議会・スーパーバイザー
- ⑮岡山県青少年健全育成促進アドバイザー制度・岡山市福田地区青少年健全育成協議会講演会講師
- ⑯総社市立幼稚園教員研修会講師
- ⑰美咲町保育協議会保育士研修会講師
- ⑱倉敷市人権教育研究協議会船穂ブロック教職員研修会講師
- ⑲岡山市立香和中学校区教職員人権教育研修会講師
- ⑳高松市公立幼稚園教員教育研究会講師
- ㉑平成26年度岡山県保育協議会職員「食に関する研修会」講師
- ㉒平成26年度第1回公益財団法人岡山市ふれあい公社児童館運営委員会
- ㉓平成26年度岡山市PTA人権問題研究会講師
- ㉔岡山市公立保育園保護者会連合会講演会講師
- ㉕山陽学園短期大学附属幼稚園保護者対象育児相談・相談員
- ㉖国立吉備青少年自然の家平成26年度教育事業「ウーリークラブ」講師
- ㉗岡山県青少年健全育成促進アドバイザー制度・岡山市立中山中学校講演会講師
- ㉘岡山市青少年問題協議会
- ㉙総社西中学校保護者研修会講師
- ㉚岡山県青少年健全育成促進アドバイザー制度・岡山市立江西幼稚園保護者研修会講師
- ㉛高知大学教育学部附属幼稚園保護者対象講演会・教職員研修会講師
- ㉜岡山県立岡山城東高等学校教育相談講演会講師
- ㉝第3回笠岡市立笠岡西中学校学校運営協議会・スーパーバイザー
- ㉞倉敷市公立幼稚園PTA連合講演会講師
- ㉟平成26年度3歳未満児担当保育士・保育サービス向上支援研修会講師
- ㊱総社市教育委員会生涯学習講座子育て講演会講師
- ㊲就実こども園保護者研修会講師
- ㊳岡山ふれあいセンター「地域応援人づくり講座」講師
- ㊴岡山市御南幼稚園保護者研修会講師
- ㊵福山暁の星幼稚園文化講演会講師
- ㊶ノートルダム清心女子大学附属幼稚園保護者研修会講師
- ㊷ノートルダム清心女子大学児童学科特別講演講師
- ㊸第4回笠岡市立笠岡西中学校学校運営協議会・スーパーバイザー
- ㊹岡山市立太伯幼稚園・保育園合同人権教育講演会講師
- ㊺山陽学園短期大学附属幼稚園育児相談相談員
- ㊻岡山県青少年健全育成促進アドバイザー制度・岡山市立南方保育園保護者人権教育講演会講師
- ㊼岡山県青少年健全育成促進アドバイザー制度・倉敷市立大内保育園保護者

	人権教育講演会講師 ④⑧岡山市立庄内幼稚園保護者研修会講師 ④⑨牛窓ルンビニ保育園後援会研修会講師 ⑤⑩丸亀市PTA連絡協議会保・幼・小・中学校合同研修会講師 ⑤⑪ライフパーク倉敷市民講座講師 ⑤⑫美咲町保育協議会保育士研修会講師 ⑤⑬第5回笠岡市立笠岡西中学校学校運営協議会・スーパーバイザー
--	---

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	准教授	氏 名	森 宏樹
実 施 日	①平成26年6月27日 ②平成26年11月6日 ③平成26年12月5日				
事業主催者（依頼元）	①岡山龍谷高等学校 ②高梁市立高梁東中学校 ③浅口市立金光中学校				
内容（タイトル）	①薬物乱用防止講習会 ②薬物乱用防止教室 ③薬物乱用防止教室				

所 属	教育学部 教育心理学科	職 位	講 師	氏 名	山田 美穂
実 施 日	①平成26年4月7日、4月21日、5月12日、6月2日、6月16日、7月7日、8月4日、 8月18日、9月1日、9月29日、10月6日、10月20日、11月17日、12月1日、 12月15日、平成27年1月19日、2月2日、2月16日、3月2日、3月16日、3月30日 （計21回）				
事業主催者（依頼元）	①岡山リビング事業社				
内容（タイトル）	①リビングカルチャー倶楽部「古典フラ入門」				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	柴田 隆司
実 施 日	①平成26年6月28日 ②平成26年9月24日				
事業主催者（依頼元）	①日本振興会総合学術研修会 ②倉敷市立精思高等学校				
内容（タイトル）	①「健康管理について」～生活習慣病の観点から～ ②「薬物乱用ってなんだろう？—乱用すると、人間が壊れる—」				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	洲崎 悦子
実 施 日	①平成26年5月28日				
事業主催者（依頼元）	①大学コンソーシアム岡山・吉備創生カレッジ				
内容（タイトル）	①科学の目でみる健康長寿「お腹から考える健康長寿」				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	須藤 鎮世
実 施 日	①平成26年8月30日 ②平成26年10月19日 ③平成26年11月30日				
事業主催者（依頼元）	①茨城県立下妻第一高等学校平成26年度為桜同窓会 ②秋田県薬剤師会薬学懇話会 ③平成26年度就実大学地域連携教育講座				
内容（タイトル）	①第I部：低線量放射線は有益である、第II部：ヒトは無毛変異で進化した ②放射線障害に関する基礎知識と低線量放射線の有益性 ③広島・福島再訪：有害な高線量放射線と有益な低線量放射線				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	中西 徹
実 施 日	①平成26年5月16日 ②平成26年7月22日 ③平成26年7月25, 26日 ④平成26年8月3日 ⑤平成26年12月6日 ⑥平成26年12月14日				
事業主催者（依頼元）	①日本アイソトープ協会 ②清心中学校・女子高等学校 ③岡山県産業振興財団 ④岡山県科学館サイピア ⑤岡山県科学館サイピア ⑥岡山スーパー大学院実行委員会				
内容（タイトル）	①放射線業務従事者のための教育訓練講習会「放射線の安全取扱」講師 ②iPS細胞観察会講師 ③おもしろ体験でえーiPS細胞観察会講師 ④科学体験学習 iPS細胞観察会講師 ⑤天体望遠鏡説明会講師 ⑥岡山スーパー大学院公開講座「高齢者のリウマチメカニズム」講師				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	西村 多美子
実 施 日	①平成26年11月6日				
事業主催者（依頼元）	①岡山県立岡山操山中学校				
内容（タイトル）	①第1学年校外調べ学習 岡山の薬学について				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	准教授	氏 名	平岡 修
実 施 日	①平成26年7月1日 ②平成26年7月10日 ③平成26年12月6日				
事業主催者（依頼元）	①岡山県立岡山東商業高等学校 ②岡山市立石井中学校 ③岡山市立福田小学校				
内容（タイトル）	①薬物乱用教室 ②薬物乱用教室 ③チャレンジワーク お仕事体験教室 「薬剤師さんになろう！」				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	講 師	氏 名	古林 呂之
実 施 日	①平成27年3月7日				
事業主催者（依頼元）	①岡山市福田公民館				
内 容（タイトル）	①子ども大学ふくだ「調剤体験と実技でクスリを学ぼう」～水で飲んだクスリはおなかの中でどうなるの？～				

所 属	薬学部 薬学科	職 位	教 授	氏 名	渡辺 雅彦
実 施 日	①平成26年7月6日 ②平成26年10月2日				
事業主催者（依頼元）	①学術団体日本振興會 ②平成26年度学校環境衛生・薬事衛生研究協議会				
内 容（タイトル）	①変わらない天気、変わりゆく天気 ②PM2.5の健康影響を考える				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	大崎 泰正
実 施 日	①平成26年5月14日 ②平成26年7月17日 ③平成26年7月17日				
事業主催者（依頼元）	①三菱電機株式会社 ②倉敷商工会議所 ③笠岡東公民館				
内 容（タイトル）	①岡山三菱電機グループ上期総会兼経営講演会「岡山県の経済情勢などについて」 ②倉敷商工会議所「吉備の国クラスター」エコ・環境グループ定例会「デフレ脱却・日本再興と地域再生」 ③笠岡東公民館教養講座「山田方谷の藩政改革とアベノミクス」				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	杉山 慎策
実 施 日	①平成26年6月5日 ②平成26年6月20日 ③平成26年6月17日・24日 ④平成26年6月23日 ⑤平成26年10月27日 ⑥平成26年12月1日 ⑦平成26年12月3日 ⑧平成26年12月18日 ⑨平成27年1月22日 ⑩平成27年2月17日				
事業主催者（依頼元）	①産業技術連携推進会議ナノテクノロジー・材料分科会繊維分科会 ②日本食品・機械研究会 ③国立大学法人広島大学 ④岡山県産業振興財団 ⑤国立大学法人横浜国立大学 ⑥岡山県立岡山城東高等学校 ⑦岡山県アパレル加工研究会 ⑧岡山県立倉敷商業高等学校 ⑨岡山県中小企業団体青年中央会 ⑩時事通信社				
内 容（タイトル）	①ジーンズ二都物語 ②日本企業の発展に向けてのブランド戦略と課題 ③イノベーションとブランド戦略 ④地域活性化とブランド創り ⑤ブランド戦略 ⑥21世紀のリーダーシップ ⑦経営戦略とブランド創り ⑧21世紀を生きる君たちへ ⑨ブランドづくりの実践 ⑩伊原木知事と岡山若手財界人のパネルディスカッションのコーディネーション				

所 属	経営学部 経営学科	職 位	教 授	氏 名	野本 明成
実 施 日	①平成26年11月15日				
事業主催者（依頼元）	①井原市市民活動センター				
内 容（タイトル）	①観光と伝統工芸を含めた地場産業再生				

所 属	短期大学 幼児教育学科	職 位	教 授	氏 名	笹倉 千佳弘
実 施 日	①平成26年10月23日				
事業主催者（依頼元）	①「妊娠中からの母子支援」即戦力育成プログラム14 岡山県地域医療再生事業 非就労助産師に対する復職研修 就労・非就労助産師への実践教育プログラム				
内容（タイトル）	①子どもの育ちと保護者の姿－階層の視点からみえてくること－				

所 属	短期大学 幼児教育学科	職 位	准教授	氏 名	澤津 まり子
実 施 日	①平成26年5月16日 ②平成26年5月29日 ③平成26年11月8日				
事業主催者（依頼元）	①岡山市保育協議会第5ブロック ②おかやま地域子育て支援拠点ネットワーク ③就実短期大学潜在保育士復職プロジェクト研修				
内容（タイトル）	①総会において「エピソード記述について」講演 ②地域子育て支援拠点等従事者養成講座 基礎研修 －子どもの発達をふまえた子育ての環境－ ③保育所保育指針を中心に保育の基本及び最新の保育事情について				

所 属	短期大学 幼児教育学科	職 位	教 授	氏 名	山根 薫子
実 施 日	①平成26年6月1日 ②平成26年6月19日 ③平成26年7月10日				
事業主催者（依頼元）	①大学コンソーシアム岡山・日ようび子ども大学 ②NPO法人ひこうせん・わくわくる一む・としょがかり勉強会 ③和気・赤磐保育協議会保育専門部会 0・1・2歳児部会 赤磐市周匝保育園				
内容（タイトル）	①伝承遊びを楽しみましょう ②絵本講座「絵本を楽しみましょう」 ③公開保育講師・講演「保育と絵本－絵本の選び方・絵本についての事例」				

所 属	短期大学 生活実践科学科	職 位	教 授	氏 名	足立 啓子
実 施 日	①平成26年9月18日				
事業主催者（依頼元）	①倉敷市児島公民館				
内容（タイトル）	①豊かなライフスタイルを目指して				

所 属	短期大学 生活実践科学科	職 位	准教授	氏 名	畦 五月
実 施 日	①平成27年3月1日				
事業主催者（依頼元）	①ライフパーク倉敷				
内容（タイトル）	①家族で作ろう。ひなあられ				

所 属	短期大学 生活実践科学科	職 位	准教授	氏 名	加藤 美奈子
実 施 日	①平成26年8月19日 ②平成26年8月28日 ③平成26年12月21日 ④平成27年3月10日				
事業主催者（依頼元）	①倉敷市 文化振興課 ②倉敷市 市民学習センター（ライフパーク倉敷） ③日本振興會 ④公益財団法人 岡山県郷土文化財団				
内容（タイトル）	①文学座談会「薄田泣菫と文豪たち」 ②くらしき市民講座「連島の詩人・薄田泣菫」 ③日本振興會講演「薄田泣菫をめぐって」 ④郷土文化講座「倉敷市所蔵「薄田泣菫文庫」資料をめぐって」				

所 属	短期大学 生活実践科学科	職 位	准教授	氏 名	原田 龍宜
実 施 日	①平成26年9月10日 ②平成26年10月21日				
事業主催者（依頼元）	①倉敷市倉敷公民館 ②ライフパーク倉敷 市民学習センター				
内容（タイトル）	①正多面体の世界 ②電卓を使って実践！生活の中の黄金比				

所 属	教務部 教務課	職 位	係 長	氏 名	野村 照代
実 施 日	①平成26年5月29日 ②平成26年5月31日 ③平成26年7月14日				
事業主催者（依頼元）	①清心女子高等学校 ②岡山キャリア教育支援ネット（SNECO） ③清心女子高等学校				
内 容（タイトル）	①高校生のためのマナー講座 ②失敗しない就活・インターンシップのためのマナー講座Ⅱ —秘書検定一級資格者によるセミナーと実技指導— ③高校生のためのマナー・キャリア教育				

**『地域と歩んだ就実の軌跡—地域貢献報告書』
第 7 号**

2015 年 3 月 31 日

発 行 就実大学・就実短期大学 地域貢献委員会
〒703-8516 岡山県岡山市中区西川原一丁目 6 番 1 号
Tel (086)271-8111(代)
発行責任者 地域貢献委員長 澤津 まり子
印 刷 株式会社プリント・ケイ